

# 第19回

## 学生生活実態調査報告書

< 令和5年度 >

自然と調和するテクノロジーの発展を目指して



## 第19回（令和5年度）学生生活実態調査報告書の発刊にあたって

学生委員会委員長

副学長 村田 美樹

令和5年度に実施した第19回学生生活実態調査の報告書をお届けします。

学生生活実態調査は、本学で学ぶ学部生、大学院生の生活や経済の状況、修学や課外活動の状況、さらには学生生活や勉学の支援制度などを把握し経年変化を分析することで、学生支援のための体制・制度や設備の改善・充実に資することを目的としています。2年に一度の実施を基本としていますが、諸般の事情から令和3年度は実施せず、前回の第18回（令和4年度）は3年ぶりの実施になりました。通常であれば、2年に一度の隔年実施となるところではありますが、正規実施年次に戻すため令和5年度に調査を実施することを5月の学生委員会で決定しました。なお、昨年同様学生委員会の下に学生生活実態調査専門委員会（委員長：宇都 正幸 准教授、委員：岡崎 文保 准教授・駒井 克昭 教授）を設置し調査を行いました。

今回もWEB方式（CoursePower）で実施し、昨年度とほぼ同じ質問項目としましたが、「入学年度、所属」の項目を削除し、「性別」の項目を追加しました。質問数は32問から31問に変更し、学生が回答しやすい調査項目としました。また、昨年度回収率が伸び悩んだ点を検証し、今年は学部1～3年次の学生に対しては、必修科目の授業担当の教員に授業時間の一部を回答時間として頂き回答率の向上を図りました。また、研究室に所属する学部4年次、大学院学生に対しては、研究室の指導教員を通じて研究打合せの一部を利用し回答時間として頂くよう依頼しました。その甲斐もあって、学部・大学院とも前回と比較し約20パーセント前後の回答率向上がみられました。しかしながら、学生に対して様々なアンケートが実施されている環境下であり、アンケート疲れによる回答率が伸び悩む一因となっております。今回の結果を受け、実施内容を検証し次回の調査方法や回答率を向上させるための方策を検討することとします。

今回の調査結果につきましては、表やグラフといった統計情報とともに調査専門委員会委員による詳細な分析も記載されています。傾向としては、過去2回の調査内容と大きな変化はありませんが、コロナ禍や物価高を反映し、生活状況では、学生を支える保護者の経済状況が厳しく、仕送りの減少傾向がみられたり、支出を抑えるなど工面を強いられている状況であると推察されます。そのような中、昨年度に引き続きフードバンクを実施し、物価高に対応する方策を講じるとともに、学生に対し、日本学生支援機構の給付・貸与奨学金、また様々な授業料免除制度を設けながら、大学生活を維持するための手段を講じておりますので、今後とも制度の利用促進とご理解をお願い致します。

その他、要望事項として、修学に関する要望、他大学との交流、サークル活動の時間延長、水飲み場設置やサークル棟施設改修等の他多岐に渡り今後考えていくべき指摘事項がありました。アンケートに回答頂いた学生の皆さんに感謝するとともに、寄せられた貴重なご意見・ご要望や調査結果を基に、学生の皆さんの学生生活や学習環境がより良いものになるよう取り組んで参ります。

アンケートの実施、結果の整理・分析におきましては、学生生活実態調査専門委員会の先生方並びに学生支援課の職員の方々に多大なるご尽力を頂きました。また、調査の実施にあたりましては、学生委員会委員の先生方ならびに1～3年次授業担当、指導教員の各先生方にアンケート実施にご協力頂きました。最後になりましたが、紙面をお借りして心から感謝申し上げます。

# 目 次

I. 調査の概要	.....	1
II. 調査結果の概要	.....	3
A. 基本的事項	.....	3
B. 住居・通学	.....	5
C. 生活状況	.....	7
D. アルバイト	.....	12
E. 修学状況	.....	15
F. 課外活動	.....	16
G. 学生生活相談	.....	17
H. 卒業・修了後の進路等	.....	19
I. 大学への意見・要望等一覧	.....	20
III. 調査集計表	.....	23
資料		
令和5年度（第19回）学生生活実態調査票	.....	28

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

本学学部学生および大学院生の学生生活支援および勉学支援を向上・充実させるため、学部学生および大学院生の生活状況、アルバイト、課外活動、修学状況、進路を把握し支援業務遂行のための参考資料とすることを目的に調査を行った。

## 2. 調査票の作成

2年に一度実施する本調査は、令和3年度に実施できなかつたため、昨年度イレギュラーで調査を実施していた。そのため、正規実施年次に戻すため令和5年度に調査を実施することを令和5年5月の学生委員会で決定した。

実施に当たり、学生委員会委員3人による学生生活実態調査専門委員会専門委員が担当し、同専門委員会で調査内容の検討を行い、令和5年5月の学生委員会において調査票を決定した。

## 3. 調査の対象

令和5年5月1日現在の在学している学部学生及び大学院学生

## 4. 調査の方法

今回の調査は、CoursePowerの「大学からお知らせ」に調査票を配置し学生が各自アクセスすることにより実施した。回答にあたり、1年次～3年次学生は必修科目の授業担当教員へ、4年次および大学院学生に対しては研究室の指導教員を通じてそれぞれ回答するよう依頼した。

## 5. 調査の時期

令和5年6月1日（木）～6月14日（水）

## 6. 調査結果の集計

CoursePowerのアンケート機能でCSVデータをダウンロードし、学生支援課で集計・取りまとめ作業を行った。

## 7. 調査の内容

- |          |                 |
|----------|-----------------|
| A. 基本的事項 | F. 課外活動         |
| B. 住居・通学 | G. 学生生活相談       |
| C. 生活状況  | H. 卒業・修了後の進路等   |
| D. アルバイト | I. 大学への意見・要望等一覧 |
| E. 修学状況  |                 |

## 8. 回答状況

回答数は、学部学生739人（回答率43.6%）、大学院生（博士前期課程）93人（回答率33.2%）、大学院生（博士後期課程）8人（回答率20.5%）であった。

## 9. まとめ

令和5年5月に第1回の専門委員会を開催し、昨年度実施した第18回学生生活実態調査集計結果に基づき検討し、今回は、CoursePowerを利用することにより学年、入学年度、学科、専攻等の項目は必要ないため省略すること。性別によるニーズの有無の確認のため、性別を任意回答項目として設問を増やし、昨年度実施した調査項目32問から31問に変更している。

今年度も昨年度同様 CoursePower のアンケート機能を使用することとしたが、昨年度回答率が思わしくなかったことの反省もあり、今年は学部1～3年次の学生に対しては、必修科目の授業担当の教員に授業時間の一部を利用し回答時間の確保を依頼し回答率の向上を図った。また、研究室に所属する学部4年次、大学院学生に対しては、研究室の指導教員を通じて研究打合せの時間の一部を利用し回答時間の確保を依頼し同様に回答率の向上を図った。

その結果、回答率は学部学生及び大学院生共に前回調査からそれぞれ約20%前後増加している。要因としては、前々回までの紙媒体の回答方式から今回はWEB回答に変更したことにより大幅に減少していたが、同じWEB回答でも実施方法のやり方により、一定程度の回答率が得られることが証明された。また、3年次学生は後期に必修科目がほとんど開講されないこともあり、必修科目が開講される前期に実施できたことも回答率上昇の一因になったと思われる。ただし、授業アンケートを始めとした複数のアンケートが実施される学内の状況は変わっていないため学生がアンケート疲れしてしまうことも回答率上昇を妨げる一因として挙げられる。

集計結果に対しては、必要に応じて前回（令和4年度）および前々回（令和元年度）の調査結果と比較し、コメントを付している。

今後、この調査結果を積極的に利用いただき、学生生活支援および勉学支援業務遂行のために有効活用されることを期待する。

最後に本調査目的を理解して協力していただいた学部学生および大学院学生の皆様にお礼申し上げます。

令和5年度学生生活実態調査専門委員会

委員長 宇都 正幸（地球環境工学科）

専門委員 岡崎 文保（地球環境工学科）

〃 駒井 克昭（地球環境工学科）

## II. 調査結果の概要

様々な角度から学生生活の実態を把握するために、例年と同様に調査を行った。設問数は昨年と同様、9項目31問に絞り込んで実施した。すべての設問について、学部学生、大学院生ともに前回の第18回調査（2022年度）と前々回の第17回調査（2019年度）との比較を行ってコメントを付した。各設問の率については、学部、大学院ともに回答数に対する回答割合としており、複数回答可とした設問については、特段、注釈がない限り、総回答数（延べ回答数）に対する回答割合を示していることをあらかじめ、お断りしておく。

なお、学部学生と大学院学生とは分けて集計するとともに、大学院学生については、総じて学部学生の結果と大きな違いは認められなかったため、特筆すべき部分以外については簡単にコメントし、記述回答も可能な限り掲載している。

また、今回の調査で学生から寄せられた意見・要望のうち、可能な限り今後の対応等について回答を行った。

調査票の各項目の集計結果は、基礎資料として「Ⅲ. 調査集計表」に一括して掲載した。

最後に、第19回2023年度学生生活実態調査票を巻末に資料として掲載した。

### A. 基本的事項

今回の調査の回収率は、学部学生平均は43.6%、大学院生（博士前期課程）は33.2%、大学院生（博士後期課程）は20.5%であった。学部学生および大学院生（博士前期課程）の前回（2022年度）の回収率はそれぞれ20.0%および15.9%であり、ほぼ倍増であった。紙媒体方式で実施した第17回の回収率には及ばないが、学生動向を把握するための回収率は達成できたものとする。

また、アンケート実施時期が前々回の7月、前回の11月であったのに対して、今回は7月に実施し、学生は2023年5月1日現在の情報で回答している。

高い回答率を得るためには、学年全体またはコース全体の必修科目が多い前期に実施し、紙媒体やオンライン回答に限らず講義時間中に回答を求める時間を設定するなどの工夫が必要と考える。

#### 1. 学部学生

##### (1) 令和5年度回答状況

学年	調査対象数	回答数	回答率
1年次	415	301	72.5
2年次	403	179	44.4
3年次	409	144	35.2
4年次	468	115	24.6
計	1,695	739	43.6

##### (2) 過去3回の回答状況

回	実施年	調査対象数	回答数	回答率
第17回	2019年度	1,768	1,338	75.7
第18回	2022年度	1,712	342	20.0
第19回	2023年度	1,695	739	43.6
平均				46.7

##### (3) 所属別回答状況

学 科	地球環境工学科	地域未来デザイン工学科	計
調査対象数	782	910	1,692
1年次	159	142	301
2年次	87	92	179
3年次	67	77	144
4年次	54	61	115
計	367	372	739
回答率	46.9	40.9	

旧学科	機械	社会環境	電気電子	情報	バイオ環境	マテリアル	計
調査対象数	1	1	1	0	0	0	3
4年次	0	0	0	0	0	0	0
回答率	0	0	0	0	0	0	

##### (4) 国籍

学年	日本	日本以外	計
1年次	287	10	297
2年次	169	5	174
3年次	136	3	139
4年次	112	2	114
計	704	20	724

##### (5) 性別（任意回答）

学年	男	女	計
1年次	256	42	298
2年次	143	30	173
3年次	119	20	139
4年次	95	19	114
計	613	111	724

## 2. 大学院学生

(1) 令和5年度回答状況

【博士前期課程】

学年	調査対象数	回答数	回答率
1年次	140	50	35.7
2年次	140	43	30.7
計	280	93	33.2

(2) 過去3回の回答状況

【博士前期課程】

回	実施年	調査対象数	回答数	回答率
第17回	2019年度	251	171	68.1
第18回	2022年度	258	41	15.9
第19回	2023年度	280	93	33.2
平均				38.7

(3) 所属別回答状況

【博士前期課程】

プログラム	機械電気	社会環境	情報通信	応用化学	マネジメント	計	
調査対象数	95	63	41	73	3	275	
1年次	回答数	16	8	6	20	0	50
2年次		11	11	11	10	—	43
計	27	19	17	30	0	93	
回答率	28.4	30.2	41.5	41.1	0		

旧専攻	機械	社会環境	電気電子	情報	バイオ環境	マテリアル	計
調査対象数	1	2	1	1	0	0	5
2年次	回答数		0	0	0	0	0
回答率	0	0	0	0	0	0	0

(4) 国籍

【博士前期課程】

学年	日本	日本以外	計
1年次	47	2	49
2年次	36	6	42
計	83	8	91

(5) 性別（任意回答）

【博士前期課程】

学年	男	女	計
1年次	46	3	49
2年次	34	8	42
計	80	11	91

(1) 令和5年度回答状況

【博士後期課程】

学年	調査対象数	回答数	回答率
1年次	9	2	22.2
2年次	10	4	40.0
3年次	20	2	10.0
計	39	8	20.5

(2) 過去3回の回答状況

【博士後期課程】

回	実施年	調査対象数	回答数	回答率
第17回	2019年度	40	12	30.0
第18回	2022年度	37	1	2.7
第19回	2023年度	39	8	20.5
平均				18.1

(3) 所属別回答状況

【博士後期課程】

専攻	共創	生産基盤	寒冷地・環境	医療工学	計
調査対象数	9	14	12	4	39
1年次	回答数		—	—	2
2年次	—	1	2	1	4
3年次	—	1	0	1	2
計	2	2	2	2	8
回答率	22.2	14.3	16.7	50.0	

(4) 国籍

【博士後期課程】

学年	日本	日本以外	計
1年次	1	1	2
2年次	2	2	4
3年次	1	1	2
計	4	4	8

(5) 性別（任意回答）

【博士後期課程】

学年	男	女	計
1年次	2	0	2
2年次	2	2	4
3年次	1	1	2
計	5	3	8

## B. 住居・通学

住居種別 (B1) では、この3回の調査でいずれも自宅に居住する学生は学部生、大学院生ともに5~8 %程度であり、学生寮・下宿・アパート・マンションに居住する学生が9割以上を占めている。その中で学生寮に居住する学生は1割弱でほぼ一定であるのに対し、下宿の割合が徐々に低下し、その分アパート・マンションの割合が増加している。学生寮を除く部屋の広さ (B2) は、学部生、大学院生ともに4.6畳以上の広さのカテゴリ4つがそれぞれ20~30 %程度でほぼ拮抗する割合である。学部学生では6.1畳~8畳の割合が徐々に増加し、今回は最も多い割合を占めていた。住居の満足度 (B3) は、過去2回とほぼ同様の回答であったが、不満足と回答するものの割合が徐々に減少してきている。

通学方法 (B4、B5) については、冬季間以外 (B4) の徒歩と自転車による通学者の合計が冬季間 (B5) の徒歩の通学者の割合とほぼ一致しており、学部生と大学院生の9割程度が徒歩圏内に居住していることがわかる。学部学生は直近の3回の調査でこの割合がほぼ一定であるが、大学院生は前々回の8割程度から9割程度に上昇していた。なお、バス通学は数%で、自動車通学の割合は学部学生で約5%、大学院生で約10%であり、冬季間でもほとんど変わらなかった。

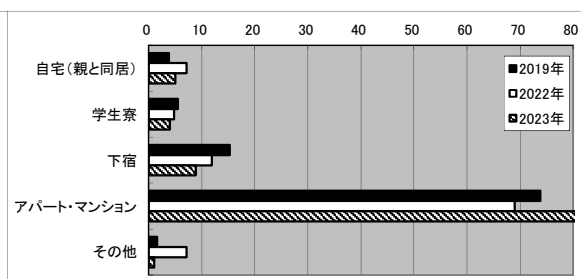
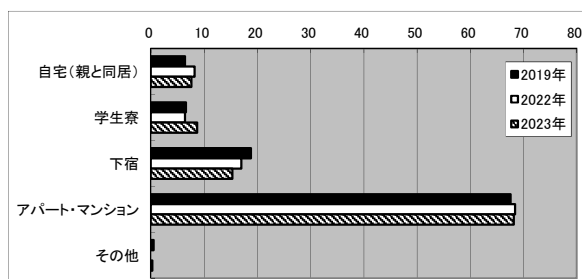
### B1 1/31 住居(種別)(%)

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
自宅(親と同居)	6.4	8.2	7.6
学生寮	6.6	6.4	8.7
下宿	18.8	17.0	15.3
アパート・マンション	67.6	68.4	68.2
その他	0.5	0.0	0.3

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
自宅(親と同居)	3.8	7.1	5.0
学生寮	5.5	4.8	4.0
下宿	15.3	11.9	8.9
アパート・マンション	73.8	69.0	81.2
その他	1.6	7.1	1.0



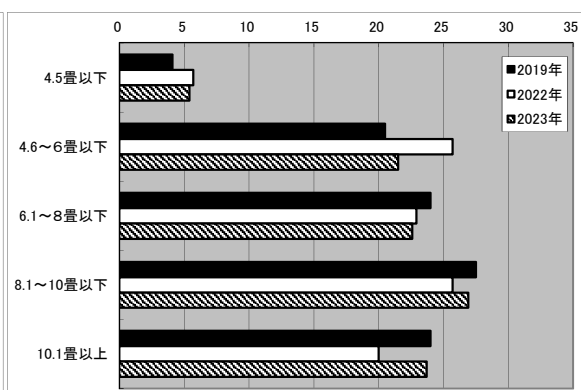
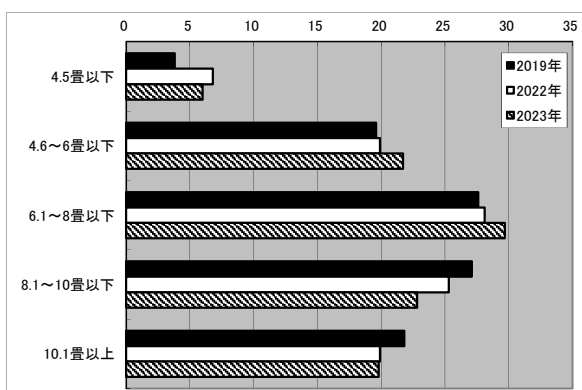
### B2 2/31 専有する部屋の面積(自宅・学生寮を除く)(%)

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
4.5畳以下	3.8	6.8	6.0
4.6~6畳以下	19.6	19.9	21.7
6.1~8畳以下	27.6	28.1	29.7
8.1~10畳以下	27.1	25.3	22.8
10.1畳以上	21.8	19.9	19.8

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
4.5畳以下	4.1	5.7	5.4
4.6~6畳以下	20.5	25.7	21.5
6.1~8畳以下	24.0	22.9	22.6
8.1~10畳以下	27.5	25.7	26.9
10.1畳以上	24.0	20.0	23.7

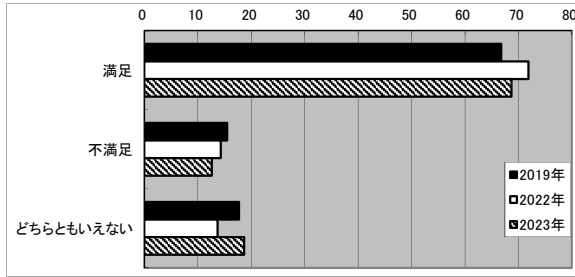




**B3 3/31 住居の満足度(自宅・学生寮を除く)(%)**

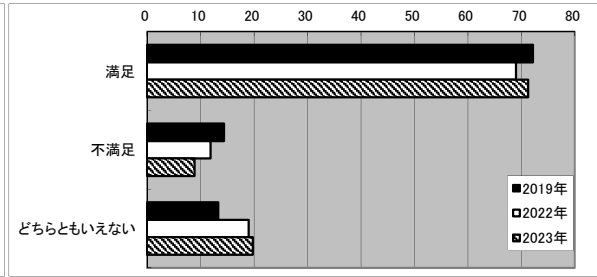
[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
満足	66.8	71.9	68.7
不満足	15.5	14.3	12.6
どちらともいえない	17.7	13.7	18.7



[大学院生(前・後期)]

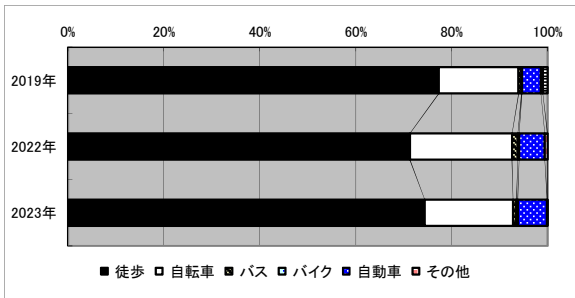
	2019年	2022年	2023年
満足	72.2	69.0	71.3
不満足	14.4	11.9	8.9
どちらともいえない	13.3	19.0	19.8



**B4 4/31 冬季間以外の通学方法(%)**

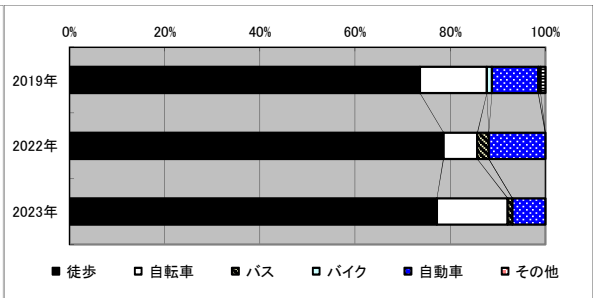
[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
徒歩	78.2	71.3	74.4
自転車	16.8	21.3	18.4
バス	0.6	1.2	0.7
バイク	0.1	0.3	0.3
自動車	4.0	5.3	6.1
その他	0.4	0.6	0.1



[大学院生(前・後期)]

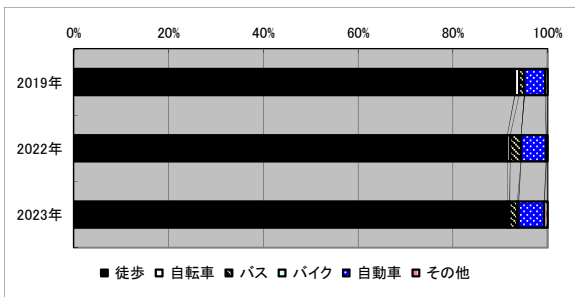
	2019年	2022年	2023年
徒歩	74.3	78.6	77.2
自転車	14.2	7.1	14.9
バス	0.0	2.4	1.0
バイク	1.1	0.0	0.0
自動車	9.8	11.9	6.9
その他	0.5	0.0	0.0



**B5 5/31 冬季間の通学方法(%)**

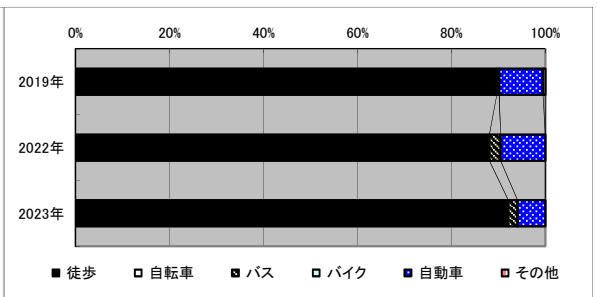
[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
徒歩	93.2	91.5	91.5
自転車	0.9	0.6	0.5
バス	1.1	2.3	1.6
バイク	0.0	0.0	0.3
自動車	4.4	5.3	5.4
その他	0.5	0.3	0.7



[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
徒歩	89.6	88.1	92.1
自転車	0.0	0.0	0.0
バス	0.5	2.4	2.0
バイク	0.0	0.0	0.0
自動車	9.3	9.5	5.9
その他	0.5	0.0	0.0



## C. 生活状況

仕送り額 (C1) が「なし」の割合は、学部学生で24.4%であり、前回より7.2ポイント減少し、コロナ過以前の2019年調査時と同程度となった。しかし大学院学生では34.7%であり、前回より3.7ポイント増加しており、凡そ3人に1人が仕送りなし、ということになる。これらの学生は、奨学金やアルバイトで生活費をまかなっていることを示している。

奨学金 (C2) が「なし」の学生は、学部学生で57.0%、大学院生で61.4%おり、これは奨学金をもらっていない学生の割合であり、残りの学生は日本学生支援機構奨学金をはじめ、各種奨学金を受けていることを示している。学部学生、大学院生共に「4万円以上6万円未満」の割合が最も高かった。このことは、日本学生支援機構奨学金の奨学金の51,000円 (学部第一種)、50,000円 (学部第二種、大学院第二種) の貸与を受けている学生が多いことに起因する。大学院生の「8万円以上10万円未満」の割合は8.9%で前回に比べて10.1ポイント減少した。しかし奨学金が「12万円以上」の割合は、学部学生では3.1%で前回の調査とほとんど同じであったが、大学院学生では8.9%と前回より6.5ポイント増加したため、返還への負担が懸念されるので、今後も推移に注意する必要がある。

アルバイト収入額 (C3) では、「なし」が学部生では47.0%と前回よりも9.6ポイント増加したが、大学院生では27.7%で前回よりも3.3ポイント減少した。一方、アルバイト収入ありの学部学生では「4万円以上6万円未満」が16.1%と最も高く、大学院生では「2万円以上4万円未満」と「4万円以上6万円未満」が共に19.8%であった。また、アルバイト収入が「6万円以上」の学生も2割近くおり、アルバイト収入とアルバイト時間との相関性を考えると、こうした学生が学業を全うできているのか、分析する必要がある。

その他の収入 (C4) は、なしが学部生では87.6%、大学院生では82.2%であった。

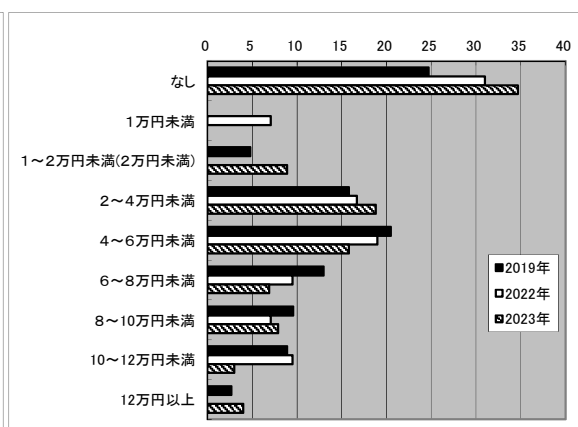
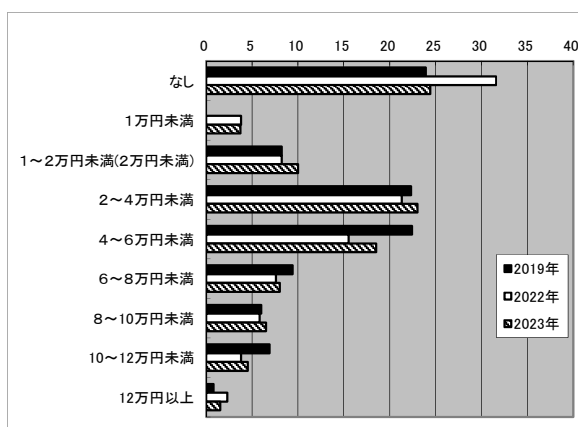
### C1 6/31 仕送り(%)【選択肢一部変更】

[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	23.9	31.6	24.4
1万円未満	—	3.8	3.7
1～2万円未満(2万円未満)	8.2	8.2	10.0
2～4万円未満	22.3	21.3	23.0
4～6万円未満	22.4	15.5	18.5
6～8万円未満	9.4	7.6	8.0
8～10万円未満	6.0	5.8	6.5
10～12万円未満	6.9	3.8	4.5
12万円以上	0.8	2.3	1.5

[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

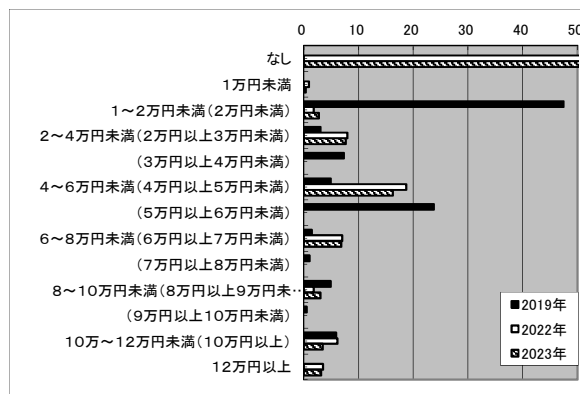
	2019年	2022年	2023年
なし	24.7	31.0	34.7
1万円未満	—	7.1	0.0
1～2万円未満(2万円未満)	4.8	0.0	8.9
2～4万円未満	15.8	16.7	18.8
4～6万円未満	20.5	19.0	15.8
6～8万円未満	13.0	9.5	6.9
8～10万円未満	9.6	7.1	7.9
10～12万円未満	8.9	9.5	3.0
12万円以上	2.7	0.0	4.0



**C2 7/31 奨学金(%)【選択肢一部変更】**

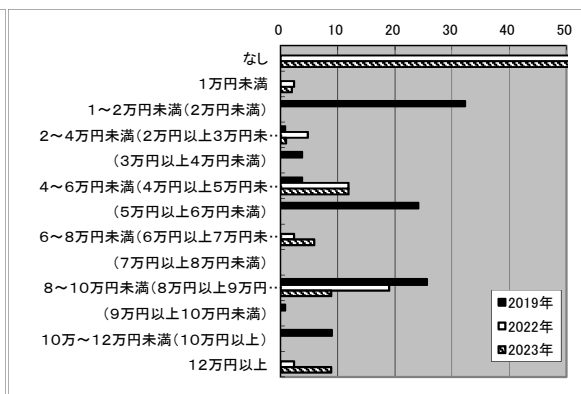
[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	52.3	57.0
1万円未満	—	0.9	0.3
1～2万円未満(2万円未満)	47.5	1.8	2.7
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	3.0	7.9	7.6
(3万円以上4万円未満)	7.3		
4～6万円未満(4万円以上5万円未満)	4.9	18.7	16.2
(5万円以上6万円未満)	23.7		
6～8万円未満(6万円以上7万円未満)	1.4	7.0	6.8
(7万円以上8万円未満)	1.0		
8～10万円未満(8万円以上9万円未満)	4.9	1.8	3.0
(9万円以上10万円未満)	0.5		
10万～12万円未満(10万円以上)	5.9	6.1	3.4
12万円以上	—	3.5	3.1



[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

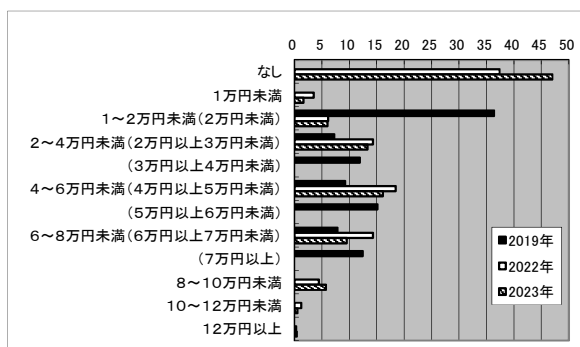
	2019年	2022年	2023年
なし	—	57.1	61.4
1万円未満	—	2.4	2.0
1～2万円未満(2万円未満)	32.3	0.0	0.0
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	0.8	4.8	1.0
(3万円以上4万円未満)	3.8		
4～6万円未満(4万円以上5万円未満)	3.8	11.9	11.9
(5万円以上6万円未満)	24.1		
6～8万円未満(6万円以上7万円未満)	0.0	2.4	5.9
(7万円以上8万円未満)	0.0		
8～10万円未満(8万円以上9万円未満)	25.6	19.0	8.9
(9万円以上10万円未満)	0.8		
10万～12万円未満(10万円以上)	9.0	0.0	0.0
12万円以上	—	2.4	8.9



**C3 8/31 アルバイト(%)【選択肢一部変更】**

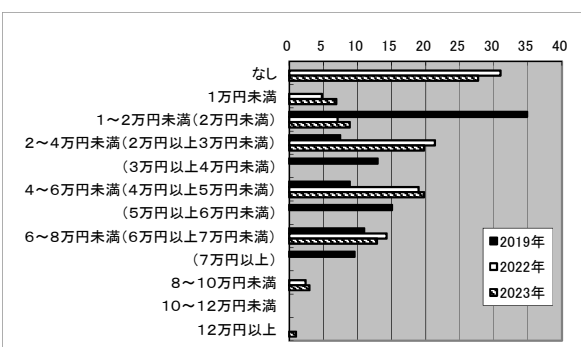
[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	37.4	47.0
1万円未満	—	3.5	1.6
1～2万円未満(2万円未満)	36.4	6.1	6.0
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	7.2	14.3	13.3
(3万円以上4万円未満)	11.9		
4～6万円未満(4万円以上5万円未満)	9.2	18.4	16.1
(5万円以上6万円未満)	15.1		
6～8万円未満(6万円以上7万円未満)	7.8	14.3	9.5
(7万円以上)	12.4		
8～10万円未満	—	4.4	5.7
10～12万円未満	—	1.2	0.5
12万円以上	—	0.3	0.4



[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	31.0	27.7
1万円未満	—	4.8	6.9
1～2万円未満(2万円未満)	34.9	7.1	8.9
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	7.5	21.4	19.8
(3万円以上4万円未満)	13.0		
4～6万円未満(4万円以上5万円未満)	8.9	19.0	19.8
(5万円以上6万円未満)	15.1		
6～8万円未満(6万円以上7万円未満)	11.0	14.3	12.9
(7万円以上)	9.6		
8～10万円未満	—	2.4	3.0
10～12万円未満	—	0.0	0.0
12万円以上	—	0.0	1.0



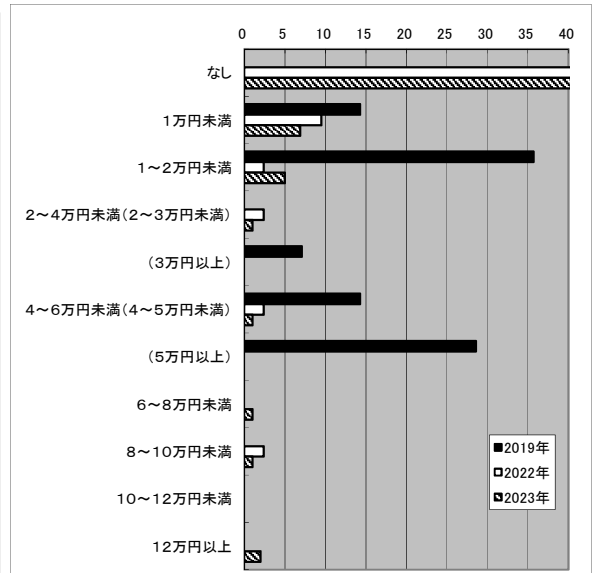
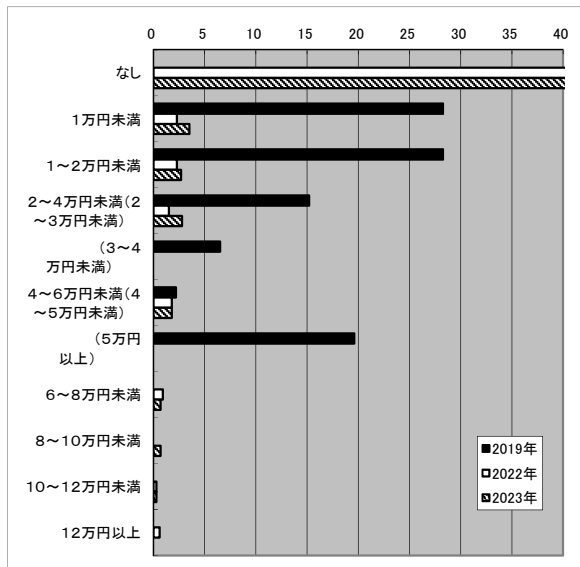
**C4 9/31 その他の収入(%)【選択肢一部変更】**

[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	90.4	87.6
1万円未満	28.3	2.3	3.5
1～2万円未満	28.3	2.3	2.7
2～4万円未満(2～3万円未満)	15.2	1.5	2.8
(3～4万円未満)	6.5		
4～6万円未満(4～5万円未満)	2.2	1.8	1.8
(5万円以上)	19.6		
6～8万円未満	—	0.9	0.7
8～10万円未満	—	0.0	0.7
10～12万円未満	—	0.3	0.3
12万円以上	—	0.6	0.0

[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	81.0	82.2
1万円未満	14.3	9.5	6.9
1～2万円未満	35.7	2.4	5.0
2～4万円未満(2～3万円未満)	0.0	2.4	1.0
(3万円以上)	7.1		
4～6万円未満(4～5万円未満)	14.3	2.4	1.0
(5万円以上)	28.6		
6～8万円未満	—	0.0	1.0
8～10万円未満	—	2.4	1.0
10～12万円未満	—	0.0	0.0
12万円以上	—	0.0	2.0



住居費の支出(C5)については、学部学生では「4万円以上6万円未満」の割合が38.0%、大学院生では「4万円以上6万円未満」の割合が45.5%であった。一方、自宅生を示す「なし」が学部学生で9.3%、大学院生で7.9%であり、前回と同じ割合であった。住居費の支出(C5)については、学部学生、大学院生ともに例年と傾向は変わらないが、「4万円以上」の割合は全体の約5割を占めた。

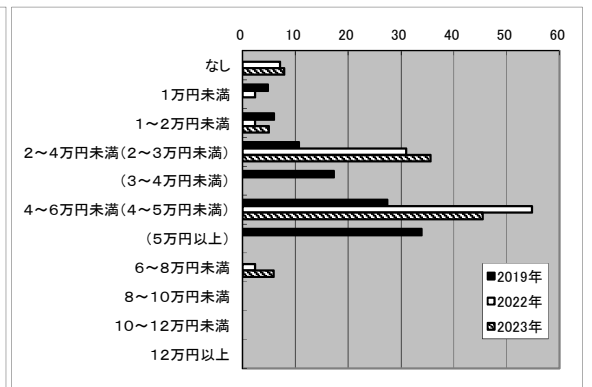
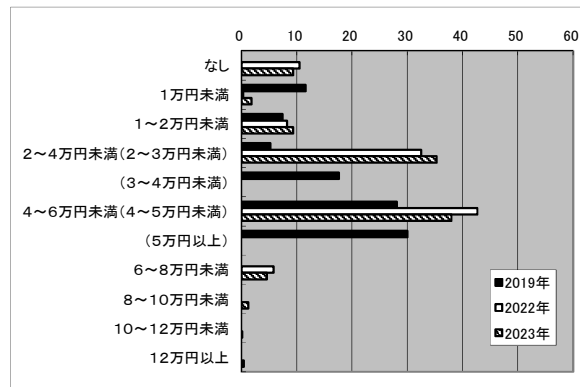
**C5 10/31 住居費の支出(%)【選択肢一部変更】**

[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	10.5	9.3
1万円未満	11.6	0.3	1.8
1～2万円未満	7.4	8.2	9.3
2～4万円未満(2～3万円未満)	5.2	32.5	35.3
(3～4万円未満)	17.6		
4～6万円未満(4～5万円未満)	28.1	42.7	38.0
(5万円以上)	30.0		
6～8万円未満	—	5.8	4.6
8～10万円未満	—	0.0	1.2
10～12万円未満	—	0.0	0.1
12万円以上	—	0.0	0.4

[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	7.1	7.9
1万円未満	4.8	2.4	0.0
1～2万円未満	6.0	2.4	5.0
2～4万円未満(2～3万円未満)	10.7	31.0	35.6
(3～4万円未満)	17.3		
4～6万円未満(4～5万円未満)	27.4	54.8	45.5
(5万円以上)	33.9		
6～8万円未満	—	2.4	5.9
8～10万円未満	—	0.0	0.0
10～12万円未満	—	0.0	0.0
12万円以上	—	0.0	0.0



食費の支出（C6）に関しては、学部学生、大学院生ともに「2万円以上4万円未満」の割合が4割以上で高く、次いで「1万円以上2万円未満」であった。教養費及び教材費（C7）では、「1万円未満」が学部学生では57.2、大学院生では67.3%と最も高く、例年の傾向と変わらなかった。通信費（電話、FAX、インターネット）（C8）では、「1万円未満」が最も高く、学部学生で51.7%、大学院生で56.4%であった。その他の支出（C9）では「なし」、「1万円未満」、「1万円以上2万円未満」の割合が凡そ7割であった。これらの結果から推察される学生の支出の平均的なモデルケースは、住居費（光熱水料を含めるか含めないかは回答者の解釈によると思われる）5万円、食費2～4万円、教養費等1万円、通信費1万円、その他1万円でトータル約10～12万円、といったものである。

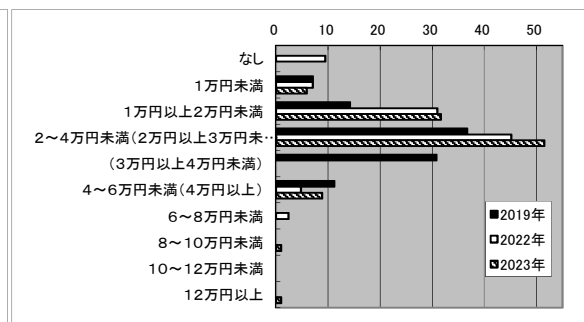
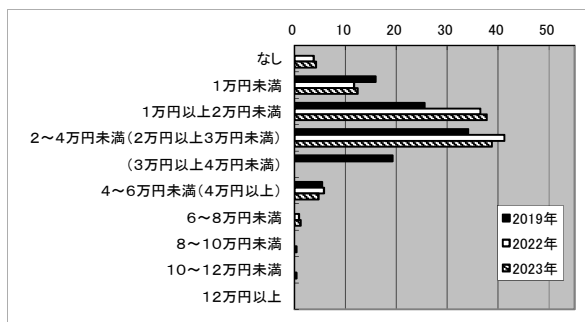
### C6 11/31 食費の支出(%)【選択肢一部変更】

[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	3.8	4.2
1万円未満	15.9	11.7	12.4
1万円以上2万円未満	25.5	36.5	37.8
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	34.1	41.2	38.8
(3万円以上4万円未満)	19.2		
4～6万円未満(4万円以上)	5.4	5.8	4.7
6～8万円未満	—	0.9	1.2
8～10万円未満	—	0.0	0.4
10～12万円未満	—	0.0	0.4
12万円以上	—	0.0	0.0

[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	9.5	0.0
1万円未満	7.1	7.1	5.9
1万円以上2万円未満	14.2	31.0	31.7
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	36.7	45.2	51.5
(3万円以上4万円未満)	30.8		
4～6万円未満(4万円以上)	11.2	4.8	8.9
6～8万円未満	—	2.4	0.0
8～10万円未満	—	0.0	1.0
10～12万円未満	—	0.0	0.0
12万円以上	—	0.0	1.0



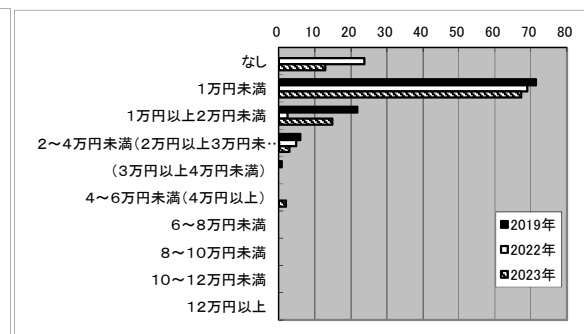
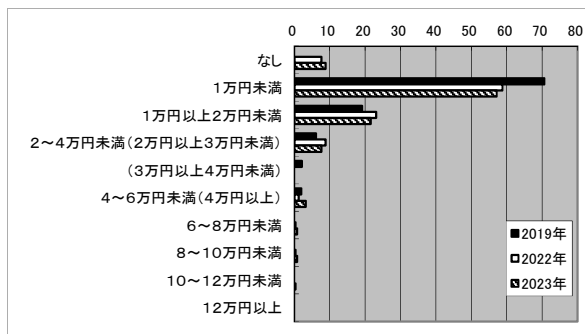
### C7 12/31 教養費及び教材費(%)【選択肢一部変更】

[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	7.6	8.8
1万円未満	70.7	58.8	57.2
1万円以上2万円未満	19.1	23.1	21.5
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	6.1	8.8	7.6
(3万円以上4万円未満)	2.1		
4～6万円未満(4万円以上)	1.9	1.2	3.2
6～8万円未満	—	0.3	0.7
8～10万円未満	—	0.3	0.7
10～12万円未満	—	0.0	0.3
12万円以上	—	0.0	0.0

[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

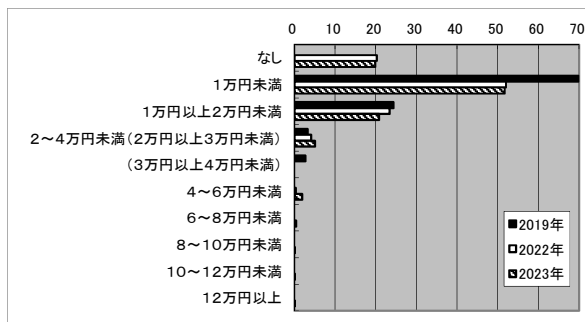
	2019年	2022年	2023年
なし	—	23.8	12.9
1万円未満	71.4	69.0	67.3
1万円以上2万円未満	21.8	2.4	14.9
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	6.0	4.8	3.0
(3万円以上4万円未満)	0.8		
4～6万円未満(4万円以上)	0.0	0.0	2.0
6～8万円未満	—	0.0	0.0
8～10万円未満	—	0.0	0.0
10～12万円未満	—	0.0	0.0
12万円以上	—	0.0	0.0



**C8 13/31 通信費(電話、FAX、インターネット)(%)【選択肢一部変更】**

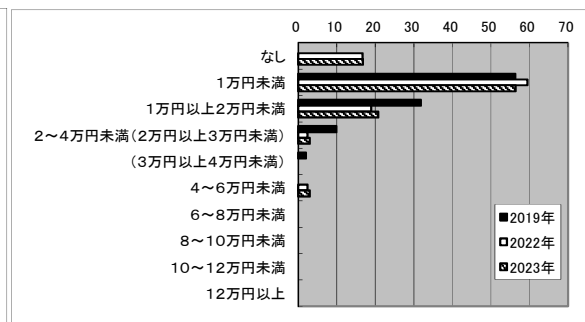
[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	20.2	19.8
1万円未満	69.8	52.0	51.7
1万円以上2万円未満	24.3	23.4	20.8
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	3.2	4.1	5.0
(3万円以上4万円未満)	2.7		
4～6万円未満	—	0.3	1.9
6～8万円未満	—	0.0	0.4
8～10万円未満	—	0.0	0.1
10～12万円未満	—	0.0	0.1
12万円以上	—	0.0	0.1



[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

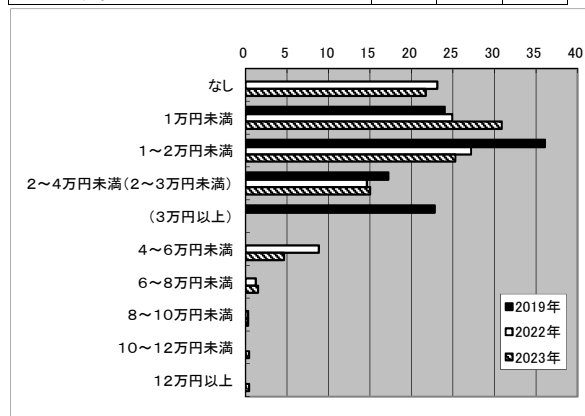
	2019年	2022年	2023年
なし	—	16.7	16.8
1万円未満	56.3	59.5	56.4
1万円以上2万円未満	31.8	19.0	20.8
2～4万円未満(2万円以上3万円未満)	9.9	2.4	3.0
(3万円以上4万円未満)	2.0		
4～6万円未満	—	2.4	3.0
6～8万円未満	—	0.0	0.0
8～10万円未満	—	0.0	0.0
10～12万円未満	—	0.0	0.0
12万円以上	—	0.0	0.0



**C9 14/31 その他の支出(%)【選択肢一部変更】**

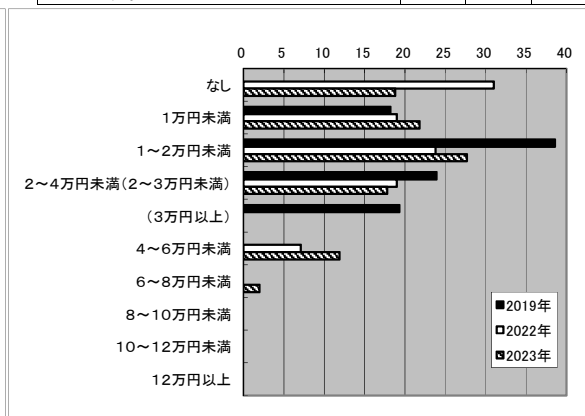
[学部学生] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	23.1	21.7
1万円未満	24.0	24.9	30.9
1～2万円未満	36.1	27.2	25.3
2～4万円未満(2～3万円未満)	17.2	14.6	15.0
(3万円以上)	22.8		
4～6万円未満	—	8.8	4.6
6～8万円未満	—	1.2	1.5
8～10万円未満	—	0.3	0.3
10～12万円未満	—	0.0	0.4
12万円以上	—	0.0	0.4



[大学院生(前・後期)] ※括弧内は前々回までの指標

	2019年	2022年	2023年
なし	—	31.0	18.8
1万円未満	18.2	19.0	21.8
1～2万円未満	38.6	23.8	27.7
2～4万円未満(2～3万円未満)	23.9	19.0	17.8
(3万円以上)	19.3		
4～6万円未満	—	7.1	11.9
6～8万円未満	—	0.0	2.0
8～10万円未満	—	0.0	0.0
10～12万円未満	—	0.0	0.0
12万円以上	—	0.0	0.0



## D. アルバイト

アルバイトを現在行っている学生の割合（D1）は、学部学生で51.3%で前回より11ポイント減少し、大学院生で68.3%と4ポイント増加した。調査時は学部1年次はまだアルバイトを始める前なので減少したと考える。

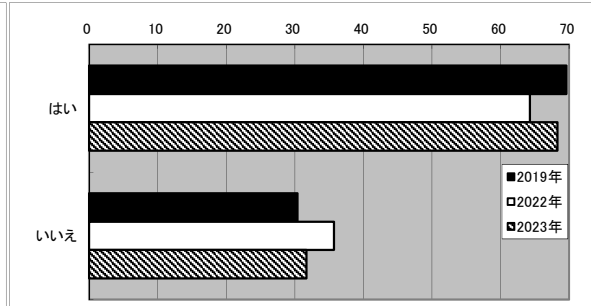
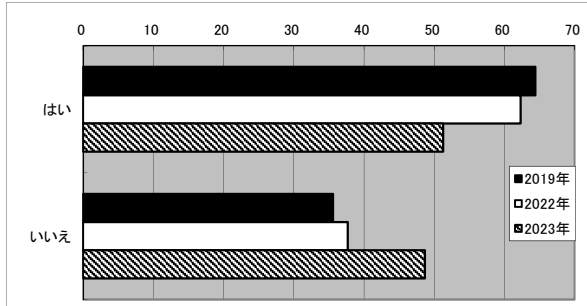
### D1 15/31 アルバイトを行っているか(%)

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
はい	64.4	62.3	51.3
いいえ	35.6	37.7	48.7

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
はい	69.6	64.3	68.3
いいえ	30.4	35.7	31.7



アルバイトの種類（D2）については、学部学生では「飲食店」が最多であり、次いで「販売・サービス」で両者を合わせると67.8%であった。一方、大学院生では「TA」が最多であり「飲食店」、「肉体労働」と続いた。他の種類については過去の調査結果とおおむね同様の傾向である。前回の調査と比較して、大学院生での「TA」、「飲食店」の割合が若干減少し、その分「肉体労働」の割合が9.2ポイント増加した。

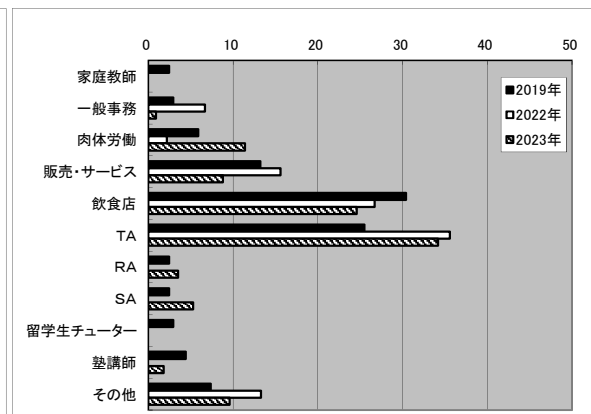
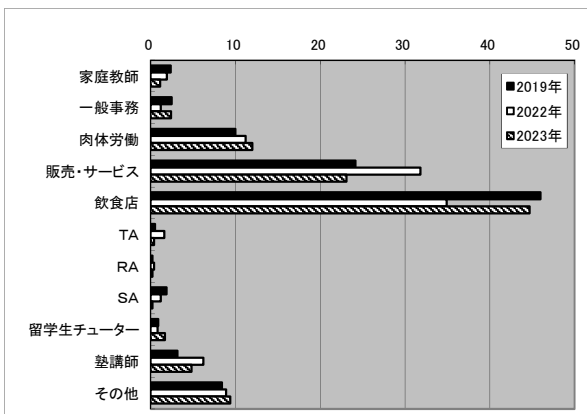
### D2 16/31 アルバイトの種類(%)【複数回答可】

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
家庭教師	2.4	1.9	1.1
一般事務	2.5	1.2	2.4
肉体労働	10.0	11.2	12.0
販売・サービス	24.1	31.8	23.1
飲食店	46.0	34.9	44.7
TA	0.5	1.6	0.4
RA	0.2	0.4	0.2
SA	1.9	1.2	0.2
留学生チューター	0.9	0.8	1.7
塾講師	3.2	6.2	4.8
その他	8.4	8.9	9.4

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
家庭教師	2.5	0.0	0.0
一般事務	2.9	6.7	0.9
肉体労働	5.9	2.2	11.4
販売・サービス	13.2	15.6	8.8
飲食店	30.4	26.7	24.6
TA	25.5	35.6	34.2
RA	2.5	0.0	3.5
SA	2.5	0.0	5.3
留学生チューター	2.9	0.0	0.0
塾講師	4.4	0.0	1.8
その他	7.4	13.3	9.6



アルバイト収入の主な支出目的（D3）は、学部学生・大学院生ともに「生活費」と「旅行・娯楽費」であり、合わせて5割以上を占め、前回とほとんど同じであった。「預貯金」の割合は学部生は前回と同じであったが、大学院生では若干増加した。

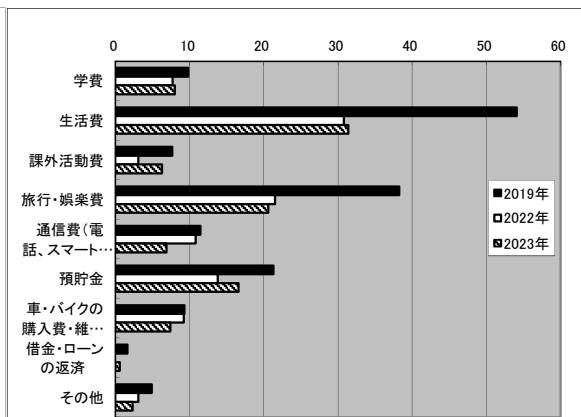
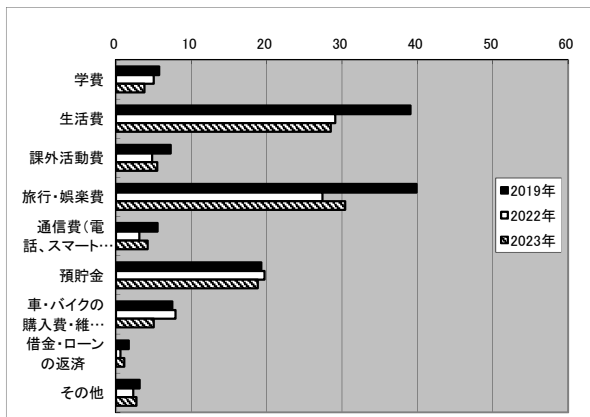
**D3 17/31 アルバイトで得た収入の支出目的(%)【複数回答可】**

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
学費	5.8	5.0	3.8
生活費	39.1	29.1	28.5
課外活動費	7.2	4.8	5.5
旅行・娯楽費	39.9	27.4	30.4
通信費（電話、スマートフォン、インターネット回線等）	5.5	3.1	4.2
預貯金	19.3	19.7	18.8
車・バイクの購入費・維持費	7.5	7.9	5.0
借金・ローンの返済	1.7	0.6	1.1
その他	3.1	2.3	2.7

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
学費	9.8	7.7	8.0
生活費	54.1	30.8	31.4
課外活動費	7.7	3.1	6.3
旅行・娯楽費	38.3	21.5	20.6
通信費（電話、スマートフォン、インターネット回線等）	11.5	10.8	6.9
預貯金	21.3	13.8	16.6
車・バイクの購入費・維持費	9.3	9.2	7.4
借金・ローンの返済	1.6	0.0	0.6
その他	4.9	3.1	2.3



1週間当たりの従事日数（D4）の第1位は、学部学生では「3日」、大学院生は「2日」であり、次いで学部生では「2日」、大学院生では「3日」であった。従業日数の分布で比較すると、学部学生よりも大学院生のほうが1日程度少なめである。

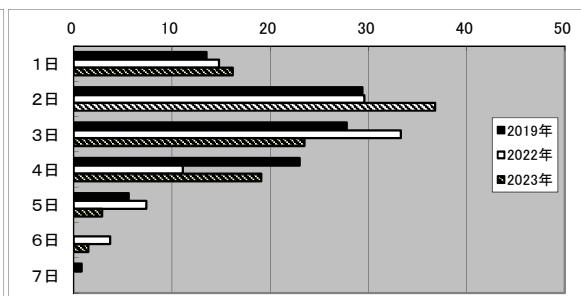
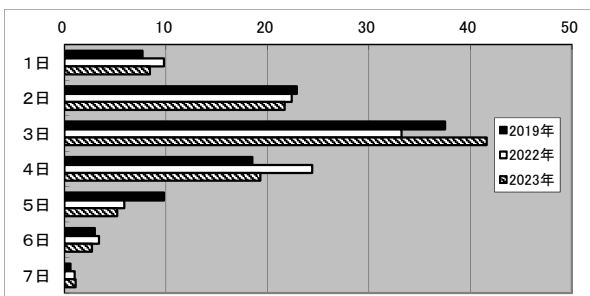
**D4 18/31 1週間当たりの従事日数(%)**

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
1日	7.7	9.8	8.4
2日	22.9	22.4	21.7
3日	37.5	33.2	41.6
4日	18.5	24.4	19.3
5日	9.8	5.9	5.2
6日	3.0	3.4	2.7
7日	0.6	1.0	1.1

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
1日	13.5	14.8	16.2
2日	29.4	29.6	36.8
3日	27.8	33.3	23.5
4日	23.0	11.1	19.1
5日	5.6	7.4	2.9
6日	0.0	3.7	1.5
7日	0.8	0.0	0.0





1週間あたりの総従事時間（D5）でみると、学部学生・大学院生ともに「10～20時間未満」が最も多い。前回、前々回の調査結果と比較すると、学部生の総従事時間が明らかに増加している傾向が認められた。一方、大学院生は「5時間未満」が前回より10.2ポイント増加したため、総従事時間は前回の調査より減少した。

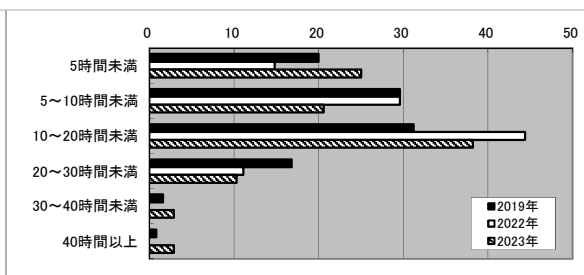
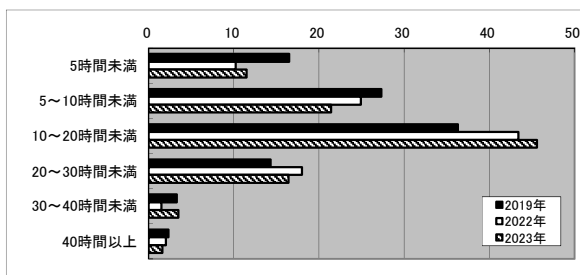
#### D5 19/31 1週間当たりの総従事時間(%)

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
5時間未満	16.5	10.2	11.5
5～10時間未満	27.3	24.9	21.4
10～20時間未満	36.3	43.4	45.6
20～30時間未満	14.3	18.0	16.4
30～40時間未満	3.3	1.5	3.5
40時間以上	2.3	2.0	1.6

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
5時間未満	20.0	14.8	25.0
5～10時間未満	29.6	29.6	20.6
10～20時間未満	31.2	44.4	38.2
20～30時間未満	16.8	11.1	10.3
30～40時間未満	1.6	0.0	2.9
40時間以上	0.8	0.0	2.9



## E. 修学状況

「自学・自習の時間」については、学部生はわずかに増加傾向にある。大学院生は「やっていない」が近年増加していたが、今年度、学習時間が増えた（E1）。「自学・自習において分からない箇所があった場合」については、学部では「友人に質問する」が圧倒的に多く半分近い（E2）。続いて「教科担当教員」、「その他」となっており、これら3つで8割以上を占める。大学院生もほぼ同様の傾向を示している。学部生、大学院生ともに「質問できる人がいない」も一定数いる。

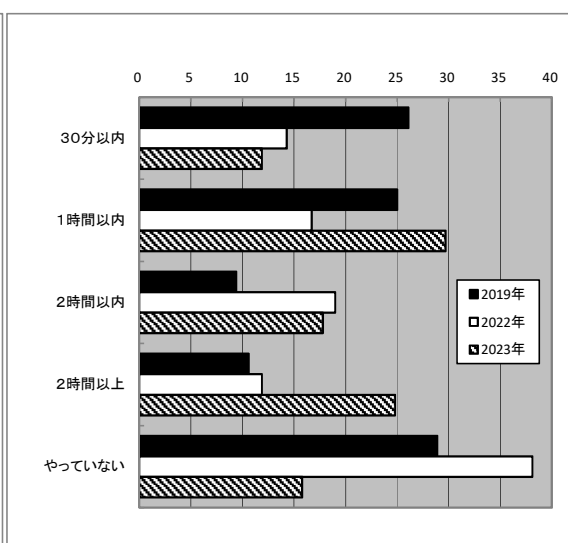
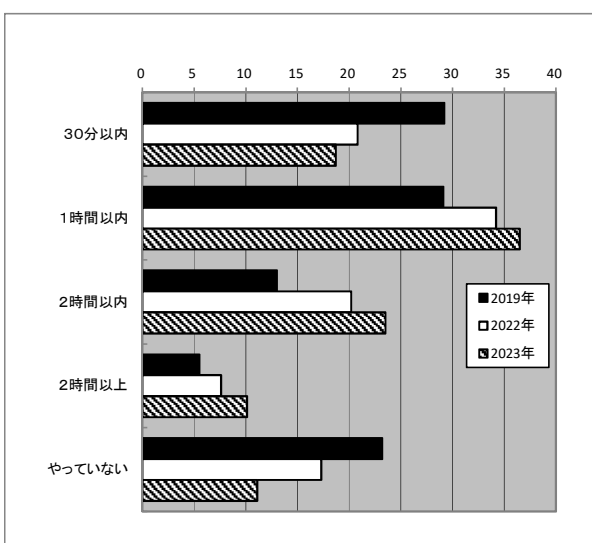
### E1 20/31 自学・自習の時間(1日平均)(%)

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
30分以内	29.2	20.8	18.7
1時間以内	29.1	34.2	36.5
2時間以内	13.0	20.2	23.5
2時間以上	5.5	7.6	10.1
やっていない	23.2	17.3	11.1

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
30分以内	26.1	14.3	11.9
1時間以内	25.0	16.7	29.7
2時間以内	9.4	19.0	17.8
2時間以上	10.6	11.9	24.8
やっていない	28.9	38.1	15.8



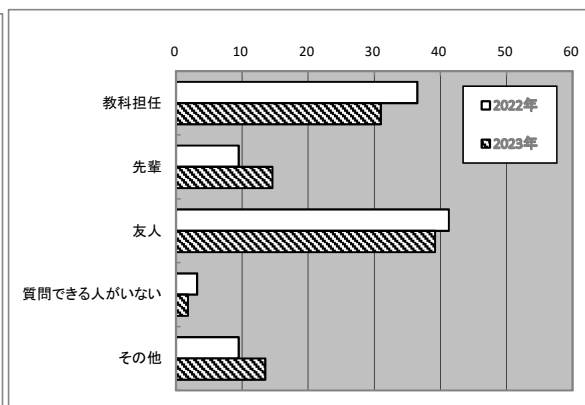
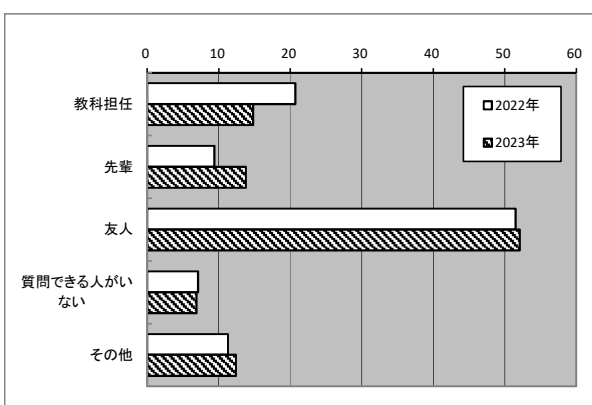
### E2 21/31 自学自習における相談相手(%)【前回から設問を新設】

[学部学生]

	2022年	2023年
教科担任	20.7	14.8
先輩	9.4	13.8
友人	51.5	52.1
質問できる人がいない	7.1	6.9
その他	11.3	12.4

[大学院生(前・後期)]

	2022年	2023年
教科担任	36.5	31.0
先輩	9.5	14.6
友人	41.3	39.2
質問できる人がいない	3.2	1.8
その他	9.5	13.5



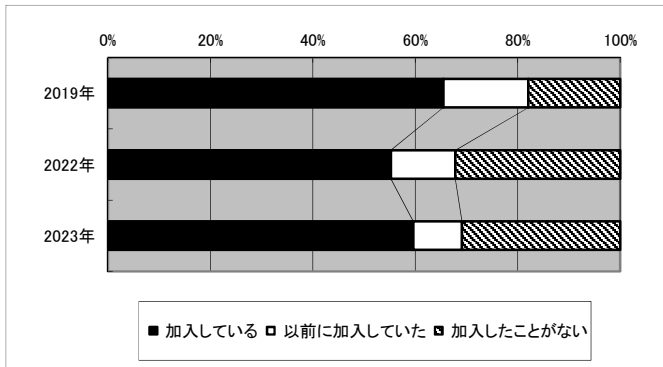
## F. 課外活動

サークル加入率は、学部生のおよそ3分の2が加入している（F1）。一方、大学院生は3分の1が加入しており、学部生に比べて加入率は少なく、以前は加入していたものの辞めた割合が学部生よりも20～30%も多い。

### F1 22/31 サークル加入率(%)

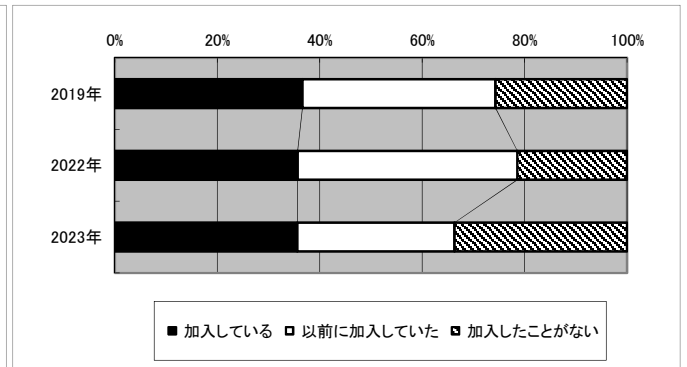
[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
加入している	65.5	55.3	59.7
以前に加入していた	16.6	12.6	9.5
加入したことがない	17.9	32.2	30.9



[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
加入している	36.6	35.7	35.6
以前に加入していた	37.7	42.9	30.7
加入したことがない	25.7	21.4	33.7

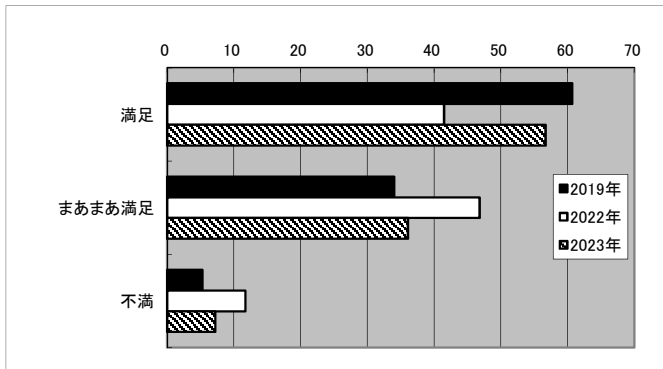


サークルに「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせた割合は、学部学生も大学院生も9割を超え、高い数字を示している（F2）。

### F2 23/31 サークルの満足度(%)

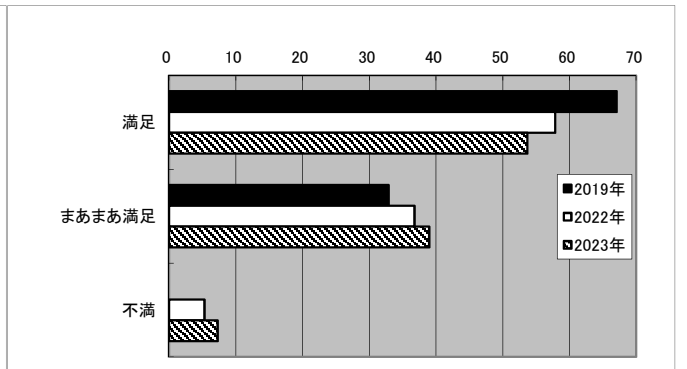
[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
満足	60.7	41.5	56.7
まあまあ満足	34.0	46.8	36.1
不満	5.3	11.7	7.2



[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
満足	67.1	57.9	53.7
まあまあ満足	32.9	36.8	39.0
不満	0.0	5.3	7.3



## G. 学生生活相談

「学生生活の満足度」については、「満足」と「まあまあ満足」を合わせて約5割の学部生が概ね満足としている。「満足」の割合は前回調査より8～9%程度増えている（G1）。「普通」から「不満」の割合は減っており、満足度は向上している結果となっている。大学院生は「満足」の割合が学部生よりも多く、前回調査に比べて「やや不満」「不満」は減少している。

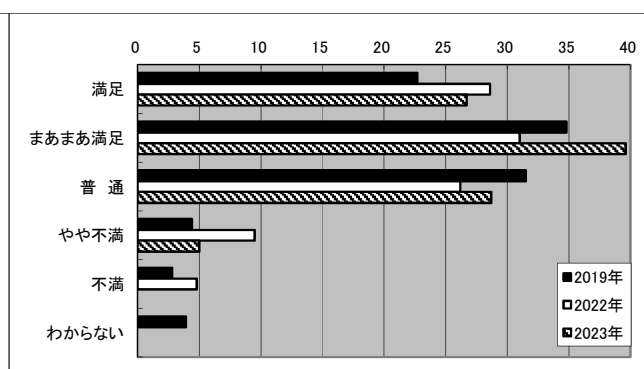
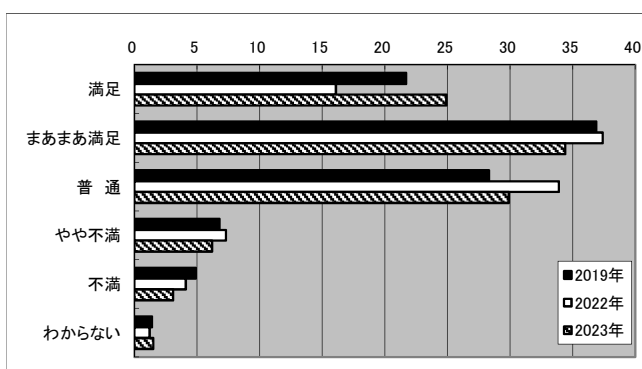
### G1 24/31 学生生活の満足度(%)

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
満足	21.7	16.1	24.9
まあまあ満足	36.9	37.4	34.4
普通	28.3	33.9	29.9
やや不満	6.8	7.3	6.2
不満	4.9	4.1	3.1
わからない	1.4	1.2	1.5

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
満足	22.7	28.6	26.7
まあまあ満足	34.8	31.0	39.6
普通	31.5	26.2	28.7
やや不満	4.4	9.5	5.0
不満	2.8	4.8	0.0
わからない	3.9	0.0	0.0



「現在の不安や悩み」については、学部と大学院ともに4から5割の学生が不安や悩みがあると回答しており学部、大学院ともに減少している（G2）。「不安や悩みの内容」は、学部、大学院ともに「将来の進路のこと」が一番多く、「勉学のこと」、「自分の性格や能力のこと」、「経済的なこと」が続くのは過去の調査結果と同様の傾向を示している（G3）。少数ではあるが大学院の方が学部生よりも「セクシャル・ハラスメント」「アカデミック・ハラスメント」が多い傾向にある。「不安や悩みの対処法」は、「自分一人で考え対処する」、「先輩や友人、知人に相談する」がほぼ同程度、次に「家族に相談する」の順に多いが、「なりゆきにかませる」と回答した学生も学部、大学院ともに1割強程度いる結果となっており、こちらも過去の調査結果と大きな傾向の変化は見られない（G4）。

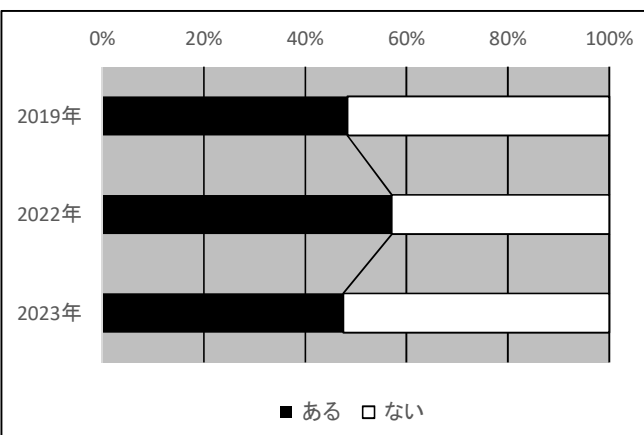
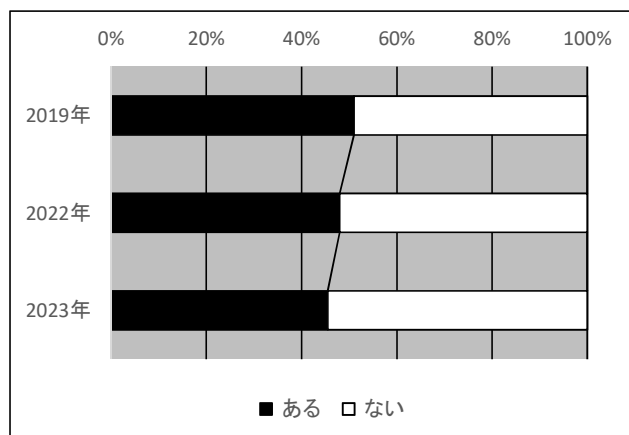
### G2 25/31 現在の不安や悩み(%)

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
ある	51.0	48.0	45.5
ない	49.0	52.0	54.5

[大学院生(前・後期)]

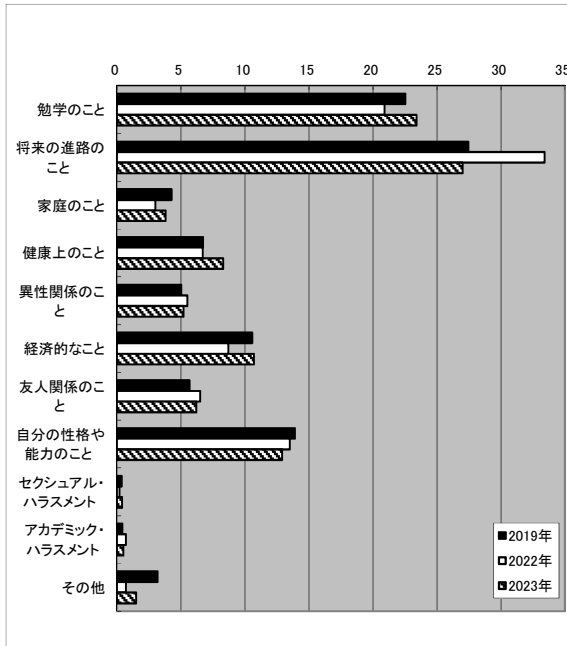
	2019年	2022年	2023年
ある	48.3	57.1	47.5
ない	51.7	42.9	52.5



**G3 26/31 不安や悩みの内容(%)【複数回答可】**

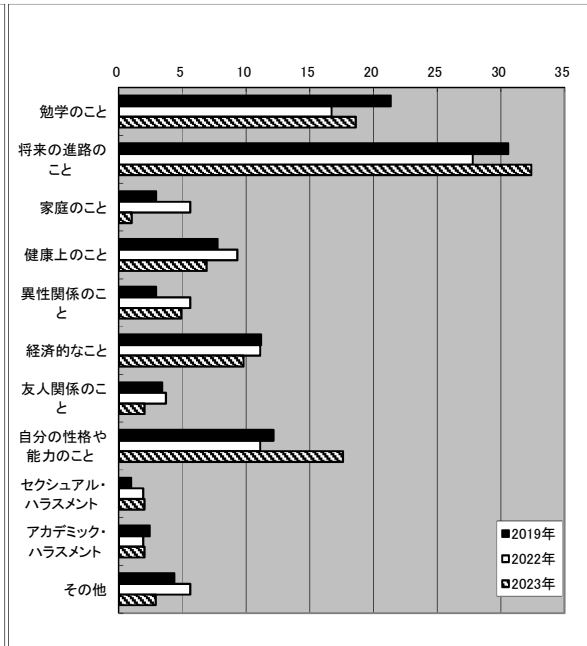
[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
勉学のこと	22.5	20.9	23.4
将来の進路のこと	27.4	33.4	27.0
家庭のこと	4.3	3.0	3.8
健康上のこと	6.7	6.7	8.3
異性関係のこと	5.0	5.5	5.2
経済的なこと	10.6	8.7	10.7
友人関係のこと	5.7	6.5	6.2
自分の性格や能力のこと	13.9	13.5	12.9
セクシュアル・ハラスメント	0.4	0.2	0.4
アカデミック・ハラスメント	0.4	0.7	0.5
その他	3.2	0.7	1.5



[大学院生(前・後期)]

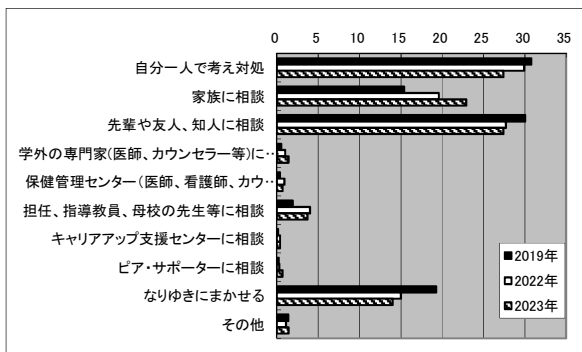
	2019年	2022年	2023年
勉学のこと	21.4	16.7	18.6
将来の進路のこと	30.6	27.8	32.4
家庭のこと	2.9	5.6	1.0
健康上のこと	7.8	9.3	6.9
異性関係のこと	2.9	5.6	4.9
経済的なこと	11.2	11.1	9.8
友人関係のこと	3.4	3.7	2.0
自分の性格や能力のこと	12.1	11.1	17.6
セクシュアル・ハラスメント	1.0	1.9	2.0
アカデミック・ハラスメント	2.4	1.9	2.0
その他	4.4	5.6	2.9



**G4 27/31 不安や悩みの対処方法(%)【複数回答可】**

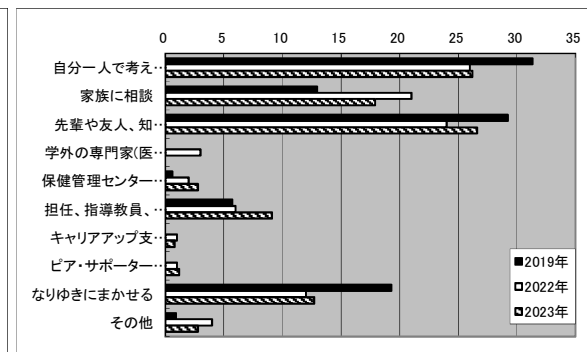
[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
自分一人で考え対処	30.8	29.9	27.4
家族に相談	15.4	19.6	22.9
先輩や友人、知人に相談	30.0	27.7	27.4
学外の専門家(医師、カウンセラー等)に相談	0.5	1.0	1.4
保健管理センター(医師、看護師、カウンセラー)に相談	0.3	0.9	0.7
担任、指導教員、母校の先生等に相談	1.9	4.0	3.7
キャリアアップ支援センターに相談	0.1	0.4	0.4
ピア・サポーターに相談	0.2	0.3	0.7
なりゆきにまかせる	19.2	15.0	14.0
その他	1.4	1.1	1.4



[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
自分一人で考え対処	31.3	26.0	26.2
家族に相談	13.0	21.0	17.9
先輩や友人、知人に相談	29.2	24.0	26.6
学外の専門家(医師、カウンセラー等)に相談	0.0	3.0	0.0
保健管理センター(医師、看護師、カウンセラー)に相談	0.6	2.0	2.8
担任、指導教員、母校の先生等に相談	5.7	6.0	9.1
キャリアアップ支援センターに相談	0.0	1.0	0.8
ピア・サポーターに相談	0.0	1.0	1.2
なりゆきにまかせる	19.3	12.0	12.7
その他	0.9	4.0	2.8



## H. 卒業・修了後の進路等

進路内容（H1）では学部学生で就職が4割強、他大学を含めて大学院進学が約4割で、これも過去2回とほぼ同じである。大学院生では就職したいが約8割であり、本学の博士後期課程への進学を希望する学生がわずかに増加している。なお、大学院で、博士前期課程に進学、と回答している学生がいるが、回答用紙が学部・大学院で共通のため、後期課程と間違えて記入したものと思われる（2019年）

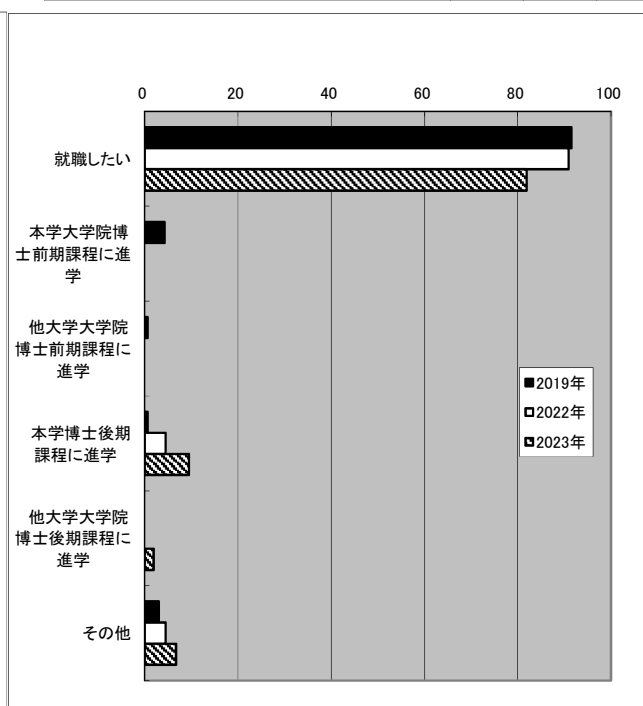
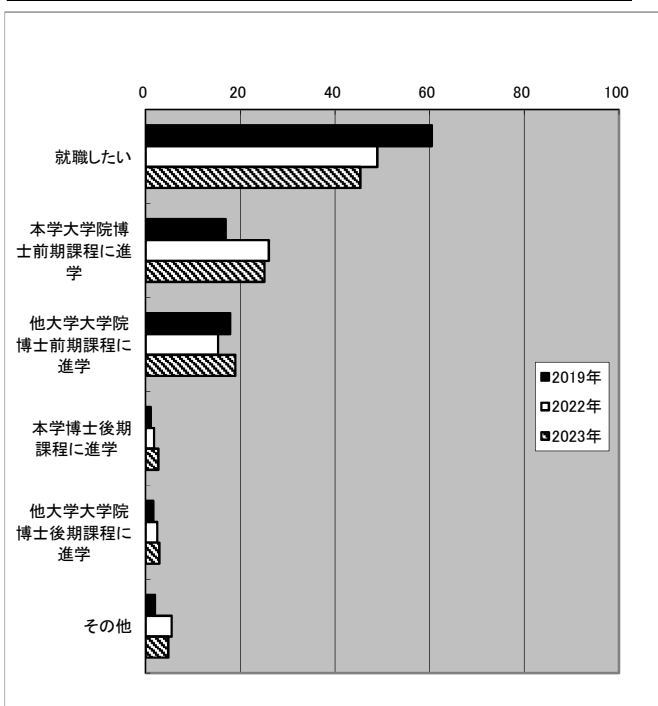
### H1 28/31 進路内容(%)【複数回答可】

[学部学生]

	2019年	2022年	2023年
就職したい	60.5	49.0	45.4
本学大学院博士前期課程に進学	16.9	26.0	25.1
他大学大学院博士前期課程に進学	17.9	15.3	19.0
本学博士後期課程に進学	1.1	1.8	2.7
他大学大学院博士後期課程に進学	1.6	2.5	2.9
その他	2.0	5.5	4.8

[大学院生(前・後期)]

	2019年	2022年	2023年
就職したい	91.5	90.9	81.9
本学大学院博士前期課程に進学	4.2	0.0	0.0
他大学大学院博士前期課程に進学	0.6	0.0	0.0
本学博士後期課程に進学	0.6	4.5	9.5
他大学大学院博士後期課程に進学	0.0	0.0	1.9
その他	3.0	4.5	6.7



#### 【補足説明】

- 設問29/31「国籍」と設問30/31「性別」は、「A.基本事項」の欄に掲載
- 設問31/31「意見・要望」は「I.大学への意見・要望等一覧」に掲載

## I. 大学への意見・要望等一覧

講義履修関係	回答
部活の大会に出場する際に公欠になるようにしてほしい。学校の名前を背負ってかつ広告活動をしているので公欠があってもいいと感じる。学校でも冬季スポーツ推薦枠などを作ってスポーツに力を入れようとしているのにも関わらずに公欠扱いにならないのは、矛盾していると感じる。出場が虚偽であることが不安なのであれば事前に提出書類などを提出するなどはいかがでしょうか？	皆さんにサークル活動等でも活躍していただきたいと考えておりますが、学生の本分はあくまで学業であることから、現状、大会への出場を公欠とはしていません。 なお、総合型選抜の冬季スポーツ枠の入学生については、入試の際に、「工学技術により自身の競技能力を高めるとともに、工学の学びを活かした冬季スポーツの振興を通じて社会貢献を目指す者」であることを条件としていることから公欠とはしていませんが、競技活動に伴い必要な配慮を行っています。
もっと他大学との交流があれば、友好関係が広がると思うぜひ、そのような機会を作ってほしい。	北海道国立大学機構では、機構内の本学・小樽商科大学・帯広畜産大学の新生を対象とした新生生合宿研修「ルーキーズキャンプ」を実施しています。この他にも三大学での交流イベントを検討していきたいと考えています。また、海外の大学との交流として、本学協定校への短期留学も実施しています。
教務課は大学の日程をしっかりと確認してほしい。大学院の推薦入試と職業指導の日程を被らせるのは学生思いではないと思う。	職業指導については今年度は学内で担当できる教員がおらず、非常勤講師の先生に授業をお願いしている科目です。教務課でも学事日程等を確認しておりますが、外部の方に講義を依頼している科目であることから調整の都合上、今年度については大学院の推薦入試と重複している日程がありました。教員免許は大学院進学後に取得することも可能であることから、大学院入学試験と職業指導の優先順位は皆さん自身に判断いただきたい旨、5月下旬から通知しています。意図的に日程を重複させた訳ではないことをご理解いただければ幸いです。
勉強でわからない時にどこに聞けばいいのかわからない。質問する場所はあるようだが、内容が専門的なことな時、本当に聞いていいのか？となる。	授業の内容について直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーやコースパワーの質問機能を活用して遠慮なく相談してください。また、ピア・サポートでは担当の学生が皆さんの様々な相談に対応しています。
学校のバイトをもっと増やしてほしい。	TA・RA・SAについては、授業形態等に基づき配置基準が定められており、単純に増やすことはできません。業務に関する質問がある場合は、TAアンケート等でお寄せいただければ配置基準見直しの参考にさせていただきます。
授業が早く切り上がるとすることがなくなって不便かつもったいないので時間内は演習なりをするようにしてほしい。	授業アンケートでご報告ください。授業担当教員へフィードバックします。
化学2も他コースで単位取得出来るようにしてほしい。(先生のやり方に合わないため)	教室の人数の関係もあり、授業担当教員との調整が必要となります。授業アンケートでご報告ください。授業担当教員へフィードバックします。
掲示版なんて見ないから全部コースパワーとかwebメールで知らせたい。	学生便覧にも記載のとおり、皆さんに対する連絡はキャンパススクエア掲示版・4号館1階学生連絡掲示版を利用して行うこととしていますので、そちらからご確認ください。
特に物理実験のような授業中に何らかのデバイスを使えず、その日のうちに出席登録をするような授業の出席登録を忘れてしまいます。できれば授業時間内に場を設けていただくと忘れにくくてありがたいです。あと小テストなどのコースパワーで回答するような課題も期限前くらいにメールで通知していただくと忘れにくいです。	授業の出席登録については、ご自身でスマートフォンやPC等から授業時間中に実施してください。もし、「授業時間外に出席登録してもよい」旨の案内が教員からあった場合は、授業アンケートでご報告ください。授業担当教員へフィードバックします。また、授業における小テストの形式等については各教員によって異なります。提出締切についてはご自身で忘れないように努めてください。
物理実験先生？TA？(学生ではない)方が煽ったような話し方で指摘してくるのをやめてほしい。個別担任にとってもじゃないが頼ろうとは思えない。現時点で必要性を感じない。	授業アンケートでご報告ください。授業担当教員へフィードバックします。本学では、きめ細やかな修学指導を行うため個別担任制を採用しています。もし、個別担任に相談しにくい内容の場合は、教務課窓口等もご利用ください。
大学生になったので自主性が重んじられるのはわかるが最初はもう少し優しくシングルサインオンシステムや学校のシステムについて教えてほしかったです。でも今はもう大丈夫です。	新入生ガイダンスでは時間に限りがありますので全てをご説明することはできませんが、可能な範囲でガイダンス内容の改善を進めさせていただきます。また、不明な点がございましたら個別担任や教務課、ピア・サポート等へご相談ください。
社会インフラ工学コースに進みたいのですが、そのあと筑波大学の大学院に進学したいと思ってます。必要なことや今しておくことはありますか。	学科からコースへの振り分けについては、学生の成績順に行います。各コースには定員があり、成績によっては第1希望のコースに進めない場合がありますので、十分注意して基礎教育の学修に臨んでください。(学生便覧P.57参照)大学院進学については、試験日程や受験資格、受験科目等を各大学院の学生募集要項から確認ができますので、目指している大学院の情報収集をしておくとうまいと思います。
数学リテラシー試験が難しすぎる。	授業アンケートでご報告ください。授業担当教員へフィードバックします。
いつでも使える自主場所を空き教室を活用するなどして増やしてほしい。	都合による講義室変更や、外部への貸出もあるため、恒常的に講義室を自習場所として確保することは難しいですので、図書館等を活用してください。

長期休暇に先行して講義を受けるなどして単位を取れる仕組みがほしい。	本学では1年間の授業期間は定期試験期間等の期間を含めて35週に渡ることを原則として、学事日程・授業時間割を作成しており、それに基づき、授業を行っております。病気等の事情により、やむを得ず長期にわたって授業を休まざるをえない場合は、教務課に連絡のうえ、授業担当教員等に相談してください。また、2ヶ月以上欠席しなければならない場合は休学することもできます。休学の手続きについては教務課に相談してください。
年間履修単位数の上限を撤廃してほしい。	すべての授業科目は、それぞれ単位数が規定されており、1単位の授業科目に対し、45時間の学修を必要とする内容で構成されています。たとえば、授業形態が「講義」の授業であれば15時間の授業+30時間の授業外学修（予習・復習等）を必要とする構成です。このため、皆さんの授業外学修の時間を確保する目的で、本学では1年間に履修登録できる単位数を制限しています。制度の趣旨をご理解いただいたうえで、ひとつひとつの授業科目の単位を着実に修得できるように取り組んで下さい。
卒研着要件や次年次以降時のスクリーニングを撤廃して4年次終了時に規定の単位数を取得していれば卒業できるという形式にしてほしい。	本学工学部において学習・教育目標を定めており、それに基づき、基礎内容を修得していただいたうえで専門的内容に進むよう、体系的なカリキュラムを構成しています。卒研着要件を含むスクリーニング制度も、その一環です。内容に関わらず124単位数を修得していれば卒業という制度にすることはできません。
講義の動画を撮っていつでも観れるようにしてほしい。	現在、講義の実施方法は原則対面となっております。また、全ての授業についてオンデマンドを並行して実施することは人的・費用的負担の観点からできません。
シングルサインオンの二重登録が学校外が手間がかかる。オンライン、オンデマンドで授業ができていたものはそのままよかったと思う。	SSOログイン時に求められる多要素認証の事を指しているかと理解して回答いたします。多要素認証の導入は、現代のセキュリティ要件に適応し、不正アクセスや情報漏洩のリスクを低減するために必要な措置です。パスワードだけではなく、複数の要素を組み合わせることでログインプロセスの保護を強化します。ご自身の重要な情報や個人データの保護をセキュリティ強化するため実施しているものです。お手間にはなりますがご協力よろしく願います。また、授業については教育的効果の観点から原則対面としております。
<b>学生生活関係</b>	<b>回答</b>
サークルの予算を増やしてほしい。	他の事業やサークルの予算との兼ね合いもあるためご希望に添えない可能性もありますがサークル連合役員と協議します。
北見は車が無いと不便なので、交通的支援をしてほしい。	北海道北見バス株式会社の通学定期券発行申込を学生支援課で行うことができますので、必要に応じて適宜申請してください。
29番の質問は国籍よりも留学生か留學生ではないかを聞いた方がいいと思います。自分みたい留學生ではない外国籍學生にとってなんかの違和感がある。	今後の取り組みの参考とさせていただきます。
生活に費やす金銭の割合として食費1:住居費1:水道光熱費1:通信費:0なので、質問項目に水道光熱費もあった方が良く思います。	今後の取り組みの参考とさせていただきます。
現在サークルで21時まで和室を使わせていただいているのですが、可能でしたら30分ほど延長していただきたいです。	施設の利用時間は施設管理の運営上、21時までと定めています。そのため、延長しての使用を認めることは出来かねますのでご了承下さい。
学生寮の入居することのできる期間を現在の4年から増やしてほしい。	北苑寮については学部4年間経過後、大学院進学に伴い在寮を希望される場合には再度入寮申請をしていただくことで選考結果及び空き部屋の状況によっては入寮することが可能です。留年等により4年間で卒業できなくなってしまう場合にも審査結果及び空き部屋の状況によっては継続して北苑寮で暮らすことが可能です。北桜寮については、部屋数の都合上、学部学生のみが最大4年間入寮することが可能となっております。
留年などした場合に奨学金が止まるのをやめてほしい。	留年した場合に奨学金が止まるのは日本学生支援機構が定めていることですので、大学では対応することができません。
成績優秀者は親の収入に関わらず、授業料の多少の免除でもして欲しい。	本学には、学部学生に対する大学院進学時の免除予約という制度があります。学部3年次前期終了時点で本学が定める成績の基準を満たしている場合適用されますので、詳細は学生支援課で確認して下さい。
<b>就職活動関係</b>	<b>回答</b>
就職情報の詳細な情報を開示して欲しい。 (ex. 就職希望者数と就職者数, 各企業ごとに入社した人数, 入社した人の職種)	就職情報をまとめた「大学紹介」を発行し、大学HPに掲載しています。就職希望者数、就職決定者数、産業別就職状況、地域別就職者数、コース・プログラム毎の就職状況等を掲載していますので、ご確認ください。



施設関係	回答
駐輪場に屋根を付けて欲しい。雨の日に自転車が濡れるから。	冬季間の除雪の支障となるため、屋根は設置しておりません。
女性用トイレの洋式を増やしてほしいです。情報棟の1回は特に和式トイレのみで不便です。ほとんどが対面講義になり、A棟でも洋式トイレが埋まっていることが多いです。	和式トイレに慣れていない方が多くなっているのが実状と認識していますが、改修工事をする費用と時間の問題から実現していません。順次改修をしていきます。
大学構内のトイレの手指乾燥機および、水飲み場(ウォーターサーバ)を使用可能にしてほしいです。(他同意見 1件)	手指乾燥機や冷水機は、電力消費削減のため休止しています。
トイレのジェットタオルを使えるようにしてほしい。	
給水機を復活していただけたら嬉しいです。	
学内に水飲み場が欲しいです。	3・11・12号館、大学会館2階などには共用流し台がありますが、研究室配属になっていない方が使える場所は少ないかもしれません。しかし、維持管理との兼ね合いもあり、また小中高のように水飲み場を設置することは想定していないため、容易に増設することは難しく存じます。運動施設の近くについては、特に必要となる場所かと思っておりますので、検討します。
夜暗いので学内に街灯を増やして欲しい。	防犯上必要と認められる箇所については、増設や近傍の既存灯具の光量アップで対応を検討します。具体的な場所・エリアをお知らせください。なお、明るさの基準はJISおよび公益社団法人防犯設備協会によるクラスA～クラスBを想定して整備をしています。
サークル棟の改修、修繕。	緊急に対応が必要な箇所については、早急に点検・修繕を行います。サークル棟の全体的な改修については、安全衛生面・機能面・費用面を考慮しながら、限られた予算の中での運用方法を含めた見直し・改善を計画的に行う予定です。
図書関係	回答
図書館の営業時間を伸ばしてほしい。	開館時間の延長については、利用者数と光熱費等開館に係るコストとの費用対効果を考慮する必要があります。今後、夜間の利用者数が増加する、延長を望む声が多数となるなどの状況になりましたら、検討したいと考えております。
施設に関しては図書館の閉館時間が早いので遅くして欲しい。	
国際交流関係	回答
留学生向けのイベントをコロナ前みたいにもっとあってほしいです。	2022年度から徐々に対面でのイベントを再開しております。2023年度もインターナショナルアワー(本学留学生と市民との交流イベント)を始めとして、様々なイベントを実施しています。イベント開催の情報はメール、LINE等でお知らせしておりますので、是非ご参加下さい。
生協関係	回答
生協のご飯にパスタ系統を(ペペロンチーノ・カルボナーラ)を追加してほしい。	後期に企画商品としてパスタの提供ができるように調整したいと思います。
食堂のメニューが増えると良いと思う。	メニューは週替わりのなかに、日替わりメニューも入れてレポートリを増やす工夫はしていますが、メニューをもう少し増やせる事ができないか、内部のオペレーション等も含めて対策を検討していきたいと思っております。
学食のご飯モノや麺類のレポートリをもう少しだけ増やしてほしい。	
毎日食堂に通っているのですがメニューがあまり代わり映えないことが少しだけ不満です。	
早く自動販売機で学生証を使えるようにしてほしいです。	生協管理の自動販売機については、7月の入替えに伴い全機種ではありませんがICリーダーの設置を進める予定です。
購買の営業時間も延長して欲しい。	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げになりましたが、購買を含めた生協の利用者数はまだコロナ前のように回復しておりません。営業時間については、もう少し状況を見極めてから判断したいと考えております。
その他	回答
出来れば、先生の募集の時、少なくとも1または2年間の会社歴が欲しい、ずっと学校にいる先生は本当に現在の学生の生活を理解できないと思います。	教員の選考に関することはお答えできません。
研究費が少ないのであまりいい材料が揃ってなくて少し不満なところはあります。	「研究費」というご意見の具体的な内容が不明なため、指導教員の先生と御相談ください。
2020年の施設使用料を返金してほしいです。	本学では「施設使用料」という名目の経費を頂いておりません。
時間給ではなくて、自分のスキルを行かせるバイトがしたいです。また、飲食店のバイトを行っている、生活習慣が崩れるので何とかしたいです。学校からの助成金が欲しい。勉学の時間、時間が欲しい。経験を積む時間が欲しい。他人のために働いて得る対価よりも自分のために働いて得た対価が欲しい。留学への助成金援助の強化、学生への健康面へのサポートの徹底。最後にお金の支援がとにかく急務です。長文失礼しました。	勉強や留学、アルバイト等様々な経験をしたいという御意見は賜りました。学生の皆さんが安心して勉強できる環境を整えて行くことが大学の責務であると考えておりますので、今後ともより良い環境作りに努めたいと考えております。









24. 現在の学生生活に満足していますか。(必須)

	学部						大学院博士前期課程				大学院博士後期課程				大学院		
	1年次	2年次	3年次	4年次	計	率	1年次	2年次	計	率	1年次	2年次	3年次	計	率	計	率
1. 満足	76	44	33	31	184	24.9	15	10	25	26.9	0	2	0	2	25.0	27	26.7
2. まあまあ満足	112	56	45	41	254	34.4	22	13	35	37.6	2	2	1	5	62.5	40	39.6
3. 普通	78	58	52	33	221	29.9	12	16	28	30.1	0	0	1	1	12.5	29	28.7
4. やや不満	23	13	6	4	46	6.2	1	4	5	5.4	0	0	0	0	0.0	5	5.0
5. 不満	5	6	8	4	23	3.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
6. わからない	7	2	0	2	11	1.5	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
計	301	179	144	115	739		50	43	93		2	4	2	8		101	

25. 現在不安や悩みがありますか。(必須)

	学部						大学院博士前期課程				大学院博士後期課程				大学院		
	1年次	2年次	3年次	4年次	計	率	1年次	2年次	計	率	1年次	2年次	3年次	計	率	計	率
1. ある	122	88	75	51	336	45.5	24	22	46	49.5	1	0	1	2	25.0	48	47.5
2. ない(問27へ)	179	91	69	64	403	54.5	26	21	47	50.5	1	4	1	6	75.0	53	52.5
計	301	179	144	115	739		50	43	93		2	4	2	8		101	

26. 前問であると回答した方のみ回答願います。

その不安や悩みはどんなことですか【複数回答可】

	学部						大学院博士前期課程				大学院博士後期課程				大学院		
	1年次	2年次	3年次	4年次	計	率	1年次	2年次	計	率	1年次	2年次	3年次	計	率	計	率
1. 勉学のこと	97	64	43	28	232	23.4	9	10	19	19.6	0	0	0	0	0.0	19	18.6
2. 将来の進路のこと	85	69	66	48	268	27.0	20	11	31	32.0	1	0	1	2	40.0	33	32.4
3. 家庭のこと	13	11	9	5	38	3.8	0	1	1	1.0	0	0	0	0	0.0	1	1.0
4. 健康上のこと	31	21	17	13	82	8.3	1	6	7	7.2	0	0	0	0	0.0	7	6.9
5. 異性関係のこと	25	11	12	4	52	5.2	4	1	5	5.2	0	0	0	0	0.0	5	4.9
6. 経済的なこと	38	26	25	17	106	10.7	6	2	8	8.2	1	0	1	2	40.0	10	9.8
7. 友人関係のこと	32	12	11	6	61	6.2	1	1	2	2.1	0	0	0	0	0.0	2	2.0
8. 自分の性格や能力のこと	43	36	27	22	128	12.9	8	9	17	17.5	0	0	1	1	20.0	18	17.6
9. セクシュアル・ハラスメント	1	0	2	1	4	0.4	0	2	2	2.1	0	0	0	0	0.0	2	2.0
10. アカデミック・ハラスメント	4	0	0	1	5	0.5	0	2	2	2.1	0	0	0	0	0.0	2	2.0
11. その他	9	3	3	0	15	1.5	1	2	3	3.1	0	0	0	0	0.0	3	2.9

27. 不安や悩みが生じた時はどのように対処しましたか(しますか)【複数回答可】(必須)

	学部						大学院博士前期課程				大学院博士後期課程				大学院		
	1年次	2年次	3年次	4年次	計	率	1年次	2年次	計	率	1年次	2年次	3年次	計	率	計	率
1. 自分一人で考え対処	180	106	89	70	445	27.4	33	26	59	25.5	2	3	2	7	33.3	66	26.2
2. 家族に相談	190	75	52	56	373	22.9	18	25	43	18.6	1	1	0	2	9.5	45	17.9
3. 先輩や友人、知人に相談	193	101	86	65	445	27.4	36	27	63	27.3	0	4	0	4	19.0	67	26.6
4. 学外の専門家(医師、カウンセラー等)に相談	9	5	2	6	22	1.4	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
5. 保健管理センター(医師、看護師、カウンセラー)に相談	6	2	0	4	12	0.7	4	2	6	2.6	0	1	0	1	4.8	7	2.8
6. 担任、指導教員、母校の先生等に相談	17	9	11	23	60	3.7	9	12	21	9.1	0	1	1	2	9.5	23	9.1
7. キャリアアップ支援センターに相談	3	1	1	2	7	0.4	0	2	2	0.9	0	0	0	0	0.0	2	0.8
8. ピア・サポーターに相談	7	2	1	1	11	0.7	0	2	2	0.9	0	1	0	1	4.8	3	1.2
9. なりゆきにまかせる	79	61	51	37	228	14.0	16	13	29	12.6	1	1	1	3	14.3	32	12.7
10. その他	14	4	4	1	23	1.4	0	6	6	2.6	0	1	0	1	4.8	7	2.8

28. 進路はどれにあたりますか。【複数回答可】(必須)

	学部						大学院博士前期課程				大学院博士後期課程				大学院		
	1年次	2年次	3年次	4年次	計	率	1年次	2年次	計	率	1年次	2年次	3年次	計	率	計	率
1. 就職したい	168	107	89	69	433	45.4	48	35	83	86.5	0	2	1	3	33.3	86	81.9
2. 本学大学院博士前期課程に進学したい	73	62	54	50	239	25.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
3. 他大学大学院博士前期課程に進学したい	96	50	28	7	181	19.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
4. 本学大学院博士後期課程に進学したい	11	12	3	0	26	2.7	3	6	9	9.4	0	0	1	1	11.1	10	9.5
5. 他大学大学院博士後期課程に進学したい	13	9	4	2	28	2.9	0	2	2	2.1	0	0	0	0	0.0	2	1.9
6. その他	22	15	9	0	46	4.8	0	2	2	2.1	2	2	1	5	55.6	7	6.7
計	383	255	187	128	953		51	45	96		2	4	3	9		105	

29. 国籍を選択してください。(必須)

	学部						大学院博士前期課程				大学院博士後期課程				大学院		
	1年次	2年次	3年次	4年次	計	率	1年次	2年次	計	率	1年次	2年次	3年次	計	率	計	率
1. 日本	287	169	136	112	704	97.1	47	36	83	91.2	1	2	1	4	50.0	87	87.9
2. 日本以外	10	5	3	3	21	2.9	2	6	8	8.8	1	2	1	4	50.0	12	12.1
計	297	174	139	115	725		49	42	91		2	4	2	8		99	

30. 性別を選択してください。

	学部						大学院博士前期課程				大学院博士後期課程				大学院		
	1年次	2年次	3年次	4年次	計	率	1年次	2年次	計	率	1年次	2年次	3年次	計	率	計	率
1. 男	256	143	119	95	613	84.6	46	34	80	87.9	2	2	1	5	62.5	85	85.9
2. 女	42	30	20	19	111	15.3	3	8	11	12.1	0	2	1	3	37.5	14	14.1
計	298	173	139	114	724		49	42	91		2	4	2	8		99	

## 令和5年度(第19回)学生生活実態調査票

この調査は、今後の学生支援をより良くするために行うものです。回答にあたっては5月1日現在の状況をありのままを正確に記入してください。なお、調査結果についてはこの調査の目的以外には一切使用しません。

調査結果は、大学運営に役立てますので御協力をお願いします。

【提出期限】 令和5年6月14日（水）

### 回答記入上の注意事項

- 1 回答内容の該当するもの一つだけ選んで、右端の回答欄に番号を回答ください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。設問は全体で31問あります。
- 2 記述欄がある場合には、「記述回答欄」に簡潔に回答願います。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された方のみ回答願います。
- 4 大学への意見・要望欄を設けていますので、大学内における学生生活全般について、特に期待したいことや、あるいは意見・要望があれば、簡潔に回答願います。

1/31 あなたの住居の種別はどれですか。 <b>(必須)</b>	1. 自宅（親と同居）（設問3/31へ） 4. アパート・マンション	2. 学生寮（設問3/31へ） 5. その他	3. 下宿
2/31 専有する部屋の広さはどのくらいですか。	1. 4.5畳（7㎡）以下 3. 6.1～8畳（13㎡） 5. 10.1畳以上	2. 4.6～6畳（10㎡） 4. 8.1～10畳（17㎡）	
3/31 現在の住居に満足していますか。 <b>(必須)</b>	1. 満足	2. 不満足	3. どちらともいえない
4/31 冬季間以外の通学方法は主として何ですか。 <b>(必須)</b>	1. 徒歩 4. バイク	2. 自転車 5. 自動車	3. バス 6. その他
5/31 冬季間の通学方法は主として何ですか。 <b>(必須)</b>	1. 徒歩 4. バイク	2. 自転車 5. 自動車	3. バス 6. その他
6/31 あなたの1ヶ月の収入について、仕送り、奨学金、アルバイト、その他の項目別におよその額を教えてください。 <b>*仕送りはどれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万～4万円未満 7. 8万～10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万～6万円未満 8. 10万～12万円未満	3. 1万～2万円未満 6. 6万円～8万円未満 9. 12万円以上
7/31 あなたの1ヶ月の収入について、仕送り、奨学金、アルバイト、その他の項目別におよその額を教えてください。 <b>*奨学金はどれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万～4万円未満 7. 8万～10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万～6万円未満 8. 10万～12万円未満	3. 1万～2万円未満 6. 6万円～8万円未満 9. 12万円以上
8/31 あなたの1ヶ月の収入について、仕送り、奨学金、アルバイト、その他の項目別におよその額を教えてください。 <b>*アルバイトの収入はどれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万～4万円未満 7. 8万～10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万～6万円未満 8. 10万～12万円未満	3. 1万～2万円未満 6. 6万円～8万円未満 9. 12万円以上
9/31 あなたの1ヶ月の収入について、仕送り、奨学金、アルバイト、その他の項目別におよその額を教えてください。 <b>*その他の収入はどれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万～4万円未満 7. 8万～10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万～6万円未満 8. 10万～12万円未満	3. 1万～2万円未満 6. 6万円～8万円未満 9. 12万円以上
10/31 あなたの1ヶ月の支出について、住居費、食費、教養費及び教材費、通信費、その他の項目別におよその額を教えてください。 <b>*住居費はどれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万～4万円未満 7. 8万～10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万～6万円未満 8. 10万～12万円未満	3. 1万～2万円未満 6. 6万円～8万円未満 9. 12万円以上

11/31. あなたの1ヶ月の支出に <b>(必須)</b> について、住居費、食費、 教養費及び教材費、通信 費、その他の項目別にお よその額を教えてください <b>* 食費（下宿等の食費 相当を含む）は どれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万-4万円未満 7. 8万-10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万-6万円未満 8. 10万-12万円未満	3. 1万-2万円未満 6. 6万円-8万円未満 9. 12万円以上
12/31. あなたの1ヶ月の支出に <b>(必須)</b> について、住居費、食費、 教養費及び教材費、通信 費、その他の項目別にお よその額を教えてください <b>* 教養費及び教材費 （教科書、参考書、 文房具等）は どれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万-4万円未満 7. 8万-10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万-6万円未満 8. 10万-12万円未満	3. 1万-2万円未満 6. 6万円-8万円未満 9. 12万円以上
13/31. あなたの1ヶ月の支出に <b>(必須)</b> について、住居費、食費、 教養費及び教材費、通信 費、その他の項目別にお よその額を教えてください <b>* 通信費（スマートフ ォン、インターネット 回線等）は どれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万-4万円未満 7. 8万-10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万-6万円未満 8. 10万-12万円未満	3. 1万-2万円未満 6. 6万円-8万円未満 9. 12万円以上
14/31 あなたの1ヶ月の支出に <b>(必須)</b> について、住居費、食費、 教養費及び教材費、通信 費、その他の項目別にお よその額を教えてください <b>* その他は どれくらいですか</b>	1. なし 4. 2万-4万円未満 7. 8万-10万円未満	2. 1万円未満 5. 4万-6万円未満 8. 10万-12万円未満	3. 1万-2万円未満 6. 6万円-8万円未満 9. 12万円以上
15/31 アルバイトをしていますか <b>(必須)</b>	1. はい	2. いいえ（設問20/31へ）	
16/31. アルバイトをしていると 答えた人だけ回答してく ださい。アルバイトの職 種はどれですか (複数回答可)	1. 家庭教師 4. 販売・サービス 7. RA 10. 塾講師	2. 一般事務 5. 飲食店 8. SA 11. その他	3. 肉体労働 6. TA 9. 留学生チューター
17/31. アルバイトをしていると 答えた人だけ回答してく ださい。アルバイトで得た 収入の支出目的は何ですか (複数回答可)	1. 学 費 5. 通信費（電話、スマートフォン、インターネット回線等） 7. 自動車・バイクの購入費・維持費	2. 生活費 3. 課外活動費 8. 借金・ローンの返済	4. 旅行・娯楽費 6. 預貯金 9. その他
18/31. アルバイトをしていると 答えた人だけ回答してく ださい。アルバイトに 費やす日数は週あたり どのくらいですか。	1. 1日 7. 7日	2. 2日	3. 3日 4. 4日 5. 5日 6. 6日
19/31. アルバイトをしていると 答えた人だけ回答してく ださい。アルバイトに 費やす時間は週あたり どのくらいですか。	1. 5時間未満 4. 20~30時間未満	2. 5~10時間未満 5. 30~40時間未満	3. 10~20時間未満 6. 40時間以上
20/31. 予習復習等を含む自学自習 <b>(必須)</b> の時間は1日平均どのくら いですか。	1. 30分以内 4. 2時間以上	2. 1時間以内 5. やっていない	3. 2時間以内
21/31. 自学自習においてわからな <b>(必須)</b> い箇所があった場合はどう していますか。 (複数回答可)	1. 教科担当教員に質問 4. 質問できる人がいない	2. 先輩に質問 5. その他	3. 友人に質問



22/31. 学内のサークルに加入し(必須)ていますか。	1. 加入している 3. 加入したことがない (設問24/31へ)	2. 以前加入していた (設問24/31へ)	
23/31. 前問で加入していると回答した方のみ回答願います。サークルに入って満足していますか。	1. 満足	2. まあまあ満足	3. 不満
24/31 現在の学生生活に満足し(必須)ていますか。	1. 満足 4. やや不満	2. まあまあ満足 5. 不満	3. 普通 6. わからない
25/31. 現在不安や悩みがありま(必須)すか。	1. ある	2. ない(設問27/31へ)	
26/31. 前問であると回答した方のみ回答願います。その不安や悩みはどんなことですか。(複数回答可)	1. 勉学のこと 4. 健康上のこと 7. 友人関係のこと 9. セクシュアル・ハラスメント 11. その他	2. 将来の進路のこと 5. 異性関係のこと 8. 自分の性格や能力のこと 10. アカデミック・ハラスメント	3. 家庭のこと 6. 経済的なこと
27/31. 不安や悩みが生じた時は(必須)どのように対処しましたか(しますか)。(複数回答可)	1. 自分一人で考え対処 3. 先輩や友人、知人に相談 5. 保健管理センター(医師、看護師、カウンセラー)に相談 7. キャリアアップ支援センターに相談 9. なりゆきにまかせる	2. 家族に相談 4. 学外の専門家(医師、カウンセラー等)に相談 6. 担任、指導教員、母校の先生等に相談 8. ピア・サポーターに相談 10. その他	
28/31. 進路はどれにあたります(必須)か。(複数回答可)	1. 就職したい 3. 他大学大学院博士前期課程に進学したい 5. 他大学大学院博士後期課程に進学したい	2. 本学大学院博士前期課程に進学したい 4. 本学大学院博士後期課程に進学したい 6. その他	
29/31. 国籍を選択してください。	1. 日本	2. 日本以外	
30/31. 性別を選択してください。	1. 男	2. 女	
31/31. その他意見・要望等がありましたら、簡潔に記入願います。			
内容:			

ご協力ありがとうございました。



**KITAMI**  
Institute of Technology